

光記念館 年報 2012.3

HIKARU MUSEUM

第 7 号
平成 22-23 年度

平成22・23年度 光記念館年報 第7号

平成23年3月31日発行
編集・発行 光記念館
〒506-0051 岐阜県高山市中山町175
TEL 0577-34-6511
FAX 0577-34-6065
<http://www.h-am.jp>

HIKARU MUSEUM



h-am.jp

目次

ごあいさつ

ごあいさつ P4

光記念館の理念

テーマ「光」 P5

地域に貢献できる博物館活動 P5

生涯教育に役立つ博物館 P5

国際交流の推進 P5

施設概要

建築概要 P6

施設の規模 P6

フロアガイド P7

平成22・23年度事業概要

常設展示 P8

- 古代からのメッセージ展示室 P8
- 1階企画展示室 P8
- 地質科学より見た飛騨展示室 P8
- 人類史展示室 P9
- 美術展示室 P11

特別展示 P18

- 広重 名所江戸百景と歌川派展 P18

- きらめきの誕生石展 P21
- 屏風 伝統と革新展 P24
- あなたはゴッホ？それとも写楽！？ P27
- 謎の文明インカ・マヤ展 P30
- 書を世界に広めた男 手島右卿展 P35

企画展示 P38

- 守谷隆一写真展～襲色目～ P38
- 光記念館人類史展示室リニューアル展 P40
- いのちをつなぐ食 part2 P45
- 第3回世界現代木彫根付芸術祭 P46
- 第4回世界現代木彫根付芸術祭 P49
- 古代ローマ遺跡と中世の城写真展 ～撮影・北村禧抒～ P52

教育普及活動

講演会 P54

- インカ・マヤ文明探訪紀行 P54

出張美術館 P56

- 実施にあたって P56
- 平成22年度 P56
- 平成23年度 P59

体験学習 P63

- 実施にあたって P63
- 平成22・23年通年の体験学習 P63
- 平成22年度の体験学習 P64
- 平成23年度の体験学習 P70

貸出資料 P74

- 作品貸出（平成22年度） P74
- 作品貸出（平成23年度） P74

光記念館 案内所 P76

- 山内大童展～みんな大きな円の中～ P76
- 堀 和義写真展 ～自然の美しさ～ P78
- ～日本でただひとりの墨型彫刻師～中村雅峯展 P79

ごあいさつ

光記念館は、平成11年4月に開館してより14年を迎えさせて頂きました。当館は、平成14年に博物館法による「登録博物館」として、また、平成19年4月に文化庁より文化財保護法第53条の規定による「公開承認施設」の承認を頂き、美術館・博物館活動をさせて頂いております。ここに当館の年報第7号を刊行し、平成22・23年度の事業報告を致します。

特別展は「広重 名所江戸百景と歌川派展」「きらめきの誕生石展」「屏風 伝統と革新展」「あなたはゴッホ？それとも写楽！？展」「謎の文明インカ・マヤ展」「書を世界に広めた男 手島右卿展」を開催して参りました。また、企画展として「守谷隆一写真展」「命をつなぐ食part2」「世界現代木彫根付芸術祭」が行われました。

さらに国際交流事業として、台湾建国100年を記念して、台湾の国立国父記念館にて「張炳煌・手島恭六友好書作展」、ルクセンブルクではEU歴史遺産記念日に「手島恭六書展」「芹沢銈介展」他を開催し、海外と文化の交流を深めて参りました。その他上海大学美術学院との交流研修も継続的に開催しております。

教育普及活動としては、小・中学校で「出張美術館」を行い、高山市教育委員会との連携・協力により「土曜教室」等を多数実施致しました。また、新たに岐阜女子大学文化創造学部書道教育コース部と連携をとり、約40名の大学生と書道練成会も開催して参りました。

この他、国内外の美術・博物館に作品・資料の貸し出しや出品を行い、他館とも連携を深めております。

今後とも、地域社会に貢献させて頂き、かつ国際色豊かな総合博物館として事業・施設の充実を図って参りたいと存じます。これまでご協力を賜りました関係機関・関係者各位に心より厚く御礼を申し上げ、今後も当館の運営・事業に対しまして格段なるご指導とご鞭撻を賜りますよう謹みて願申し上げます。

平成24年3月31日
光記念館 館長
加藤郁乎

光記念館の理念

テーマ「光」

地球環境との対話が叫ばれる今日、生命エネルギーの根源である「光」をテーマに博物館活動を行なう。「光」のテーマは広範囲である。太陽からの光、自然からの光、化石等過去の物質からの光、人工的な過去の文明からの光、また、芸術・美術、人の心からの光など。こうした人類に向けて放たれる光を多方面にわたり
① 資料収集・保管
② 調査研究
③ 資料・収蔵品の紹介・展示
④ 教育普及活動
することにより、人類・社会の精神的・物質的な向上を目指すものとする。
来館者が、長い年月の中で地球や人類が育んできた歴史をたどり、自然と人類が残した優れた美・芸術・文化に触れることにより、今後の生き方、未来へ歩む方向性を見出せるような活動を展開して行く。

地域に貢献できる博物館活動

飛騨地域は、特有（古生代から新生代）の地層・地質・岩石・化石等を保有している。そこに住む人々の歴史と伝統文化を紹介することにより、地域に融和した文化環境の向上を目指す。
地元、飛騨地域（高山市を含む）を中心に、岐阜県及び中部地区に貢献できる社会教育施設として、博物館活動を展開して行く。

生涯教育に役立つ博物館

老若男女を問わず、児童・生徒から大人まで気軽にご来館いただける公共施設として、生涯教育に役立つ総合博物館として、特に、今後の未来を担う青少年の知育向上のための教育施設として広く一般に利用していただくことを目的とする。

国際交流の推進

世界古代文明の遺物や優れた芸術品を展示・紹介することにより、国際交流の推進並びに地域社会の国際化にも貢献する。
そのため積極的に国際的な企画展を実施して行く。

施設概要

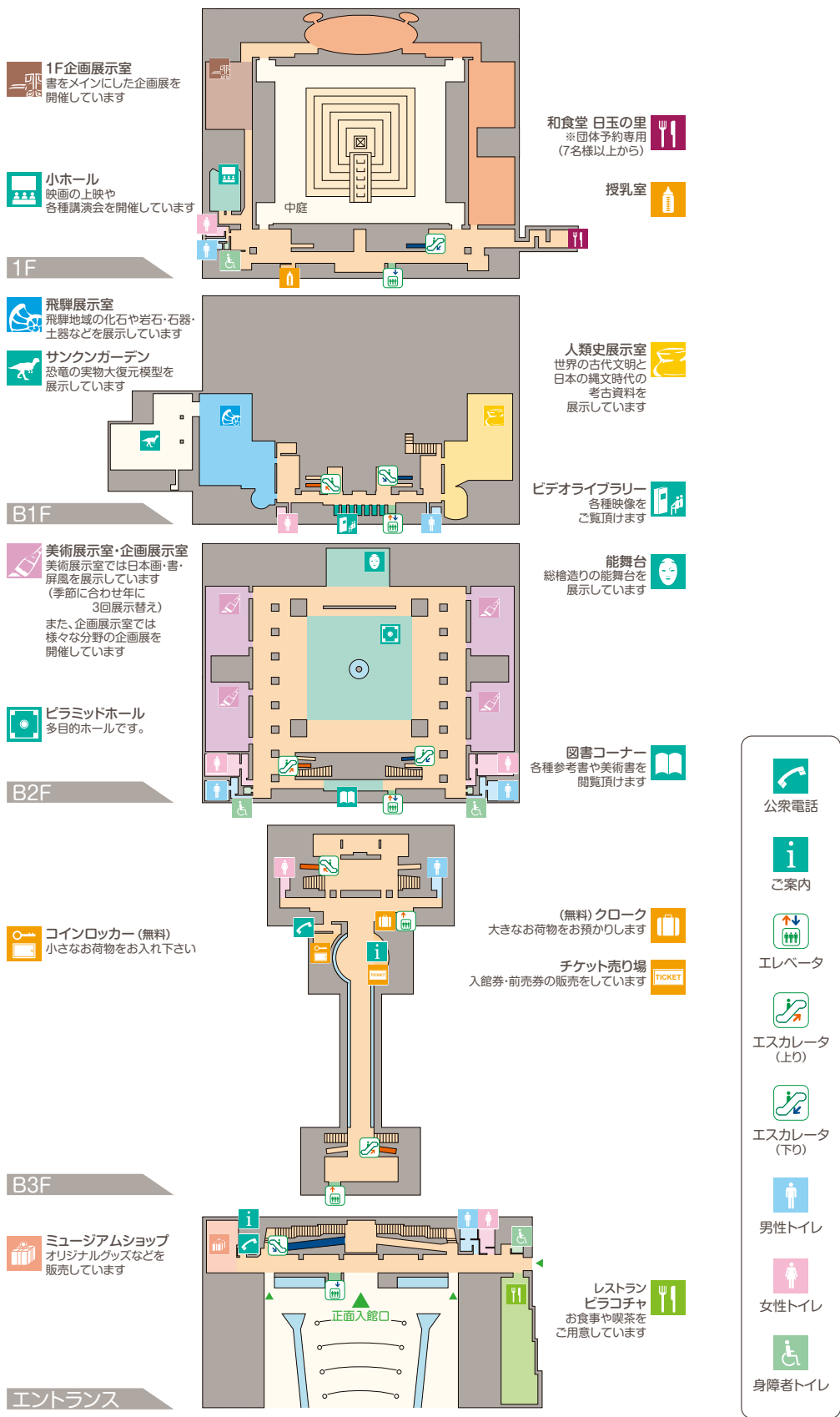
建築概要

所在地	岐阜県高山市中山町175
地区・地域	第2種住居地域 教育文化地区
工期	着工：平成5年6月23日 竣工：平成10年2月27日 開館：平成11年4月8日
敷地面積	75,753.75㎡ (22,915坪)
建築面積	14,097.00㎡ (4,264坪)
建ぺい率	19.78%≦48.17% (地区計画)
延床面積	32,668.81㎡ (9,882坪)
容積率	45.84%≦76.34% (地区計画)

施設の規模

駐車台数	来館者用 乗用車 105台 バス 27台 職員用 乗用車 66台
見学ゾーン面積	1階 3,750.62㎡ (1,135坪) 地下1階 2,812.12㎡ (851坪) 地下2階 7,013.97㎡ (2,122坪) 合 計 13,576.71㎡ (4,107坪)
能舞台	1 舞台
小ホール	108席
収蔵庫面積	1,534.62㎡ (464坪)
図書室	30席
レストラン「ピラコチャ」	108席
和風レストラン「日玉の里」	82席 (団体予約専用)
立礼席	32席
美術館棟の外形	101m×86m
外部ピラミッドの高さ	20.7m (中央床面より)
内部ピラミッドホールの天井高	21.7m (地下2階フロアより)
可変床面積	1,353㎡ (409坪)

フロアガイド



平成 22・23 年度事業概要

常設展示

古代からのメッセージ展示室

1.展示目的

人類は発生より現在まで「幸福」を求め続け、今や絢爛豪華で便利な物質文明を極度に発展させた。その一方で現在、未来人類の存在すら危ぶまれる状況を現出させている。科学・医学・政治・経済・教育・宗教等の研究学問技術は個別に発達し、その相互の関連性の中で矛盾と対立を生み出している。それは、人類が直面している危機的諸問題解決の妨げとさえなっている。この人類規模の危機的状況を克服し、人類悠久繁栄と真の幸福という目的に向かってあらゆる分野を総合一体化させることの必要性を提案することが本展示室の目的である。

社会科学・自然科学の様々な分野から研究成果を紹介することにより多様な知識を提供できる。また、学問として確立されていないものに関しても中立の立場から紹介し、より豊富な情報を提供している。

2.展示内容

あらゆる分野からのテーマで展示を行っている。社会問題や科学、歴史等、既に学問として確立されたものや現在調査研究を行っているものに関しても展示している。

常に中立的な見解からの展示を行ない、多様な側面からの情報知識を紹介する。

3.展示手法

実物資料、グラフィック、映像、検索映像、映像（小ホール）

※「映像（小ホール）」では120インチプロジェクター1台と椅子108席を設置している。夏季を中心に監修の先生方並びに当館学芸員による特別講座を開催し、展示の補足や学習の補助を行なっている。

4.開催した企画展

①いのちをつなぐ食Ⅱ
平成20年10月30日～平成22年9月28日

②いのちをつなぐ食Ⅱ
平成22年10月1日～平成23年5月17日

1 階企画展示室

1.展示目的

1階企画展示室は、当館地下2階にある4つの展示室以外に、小規模な企画展示や常設展示を行う場として平成23年夏より開設されたスペースである。古来より人の精神性に深く関わり洗練されてきた美術品の展示を通して、高い感性を培うことを目的としている。

2.展示内容

1階企画展示室では、開設当初より当館所蔵の現代書を展示している。当館は書のコレクションが充実しており、多くは現代書であるが、いくらか歴史的に著名な人物の書もある。これらを混同させぬよう住み分けし、地下2階美術展示室で歴史書、1階企画展示室で現代書を展示することにした。

地質科学より見た飛騨展示室

1.展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。

いつの時代においても1つ1つの生命には役割があり、一切無駄無く配置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

2.展示内容

飛騨は古生代の福地累層、中生代の手取層群、新生代の火砕流堆積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。

飛騨の実物資料を通して、地球の自然界における

普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生命の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。

展示は飛騨産出の化石と考古資料を中心に古生代から現代までの飛騨の歴史と生命の関わりを提示している。

展示は命と心の大切さを伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは、葉脈に至るまで化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部に宇宙から見た地球を表現し、自然の美しさと思議さを提示しながら視点を飛騨に絞っていく。

※展示手法：

○地球模型・100インチモニター映像

○実物資料：火星起源隕石 Mbale（石質隕石）

〈古生代〉

飛騨にある古生代の地層から、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。これらの原始生物は何億年もかけて大量の酸素を放出し、生命の星とよばれる地球の基礎となる、オゾン層や大気等の環境をつくったといわれている。

また、現在の珊瑚礁のように、古生代のサンゴと藻類等も理想的な共生関係を保って繁栄を遂げたことを紹介している。

※展示手法：

○実物資料…海生動物化石・岩石

○復元模型…実物資料を用いて「福地累層」「デボン紀岩盤」の一部を原寸大に復元した。

○ジオラマ…「デボン紀」「石炭紀」「ペルム紀の海」の様子を忠実に復元した。ミラービジョン・映像。

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く産出することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、中生代の生活環境をつくったことを伝える。

※展示手法

○実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等。

○ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した。

○恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリュウ・カガリユウの原寸大復元模型。

〈新生代〉

飛騨の山々は、新生代の活発な火山活動とプレート活動によって形成されたといわれている。大地の巨大なエネルギーを地形の痕跡等から伝える。また、新生代は人類が出現し、活動を始めた時代でもある。

人類が作った道具を地球史46億年の産物である岩石、粘土、木の素材表現をするという視点で展示し、自然の産物を借用して人類は営み始めたことを伝えている。自然に適応するために道具を作り、自然素材の特性を活かして繁栄を遂げた人類と自然との共生を紹介する。

※展示手法

○実物資料…石器、土器、岩石。

○映像模型…噴火と再生の様子を紹介。

〈考古〉

高山市丹生川町広殿（ひろんど）遺跡の紹介

※展示手法

○実物資料…土器・石器

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習をする場とする。

べたべた地層をやってみよう…古生代・中生代・新生代の3つの時代の地層を作り各時代の生きていたもの（ぬいぐるみ）を貼り付ける体験学習。

※学習手法

○Q＆Aコーナー…タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。

○体験学習室…多目的スペース。実物資料に触れる、企画展等を計画。

○体験学習室…触れる化石、拓本体験コーナー、恐竜パズル、折り紙コーナー、ぬりえコーナー等。

人類史展示室

1.展示目的

展示は、人類が共通して持つ普遍の心、『崇める心』をテーマにした。

古来より人類は自然を畏れ尊び、人間の知恵と力の及ばないところに神の世界があると考え、崇める心を培ってきた。豊かな文化や現代にまで残る遺産といった古代文明の所産は「崇める心」の象

徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。また、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ることが、今後の文化・文明を考える上でも重要である。

ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21世紀を生きる現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の“心”を問う場を提供している。

2.展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行っている。旧石器時代から世界の7つの文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』をテーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約400万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適応しつつ豊かな文化を育んでいった。火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介している。

※展示手法

○実物資料…旧石器。

○縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約1万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7つの文明と日本の縄文時代の地理的・時代的な位置関係を一覧できるよう工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

※展示手法

○世界地図に8つの21インチモニターを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像で一覧できるようにしている。

〈古代文明〉

紀元前3000年頃より栄えた世界的にもよく知られる7つの文明を、コーナーごとに分けて展示し

ている。

世界各地の古代文明を社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様等、多方面から見つめ、比較することで、それぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索できるようにしている。

※展示コーナー

①メソポタミア文明

②ギリシア・地中海文明

③エジプト文明

④メソアメリカ文明

⑤中国文明

⑥インダス・インド文明

⑦アンデス文明

※展示手法

○実物資料…保存状態の良好な副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。

○グラフィック…大型写真パネル、地図・年表、解説文を全文明統一した手法で配置している。

○模型資料…当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型（ウルのジクラット・パルテノン神殿・ティカール神殿）、三内丸山遺跡の復元模型、巨木柱等を設置している。また、アンデス文明『太陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力いただいた資料を元に作成したものである。

〈縄文〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。

自然と共に生き、1万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示している。

※展示手法

○実物資料…土偶、土器、石製品。

○レプリカ…木製品、土器。

○ミラービジョン…三内丸山遺跡の5500年前と発掘時の様子を縮小模型で重ねてみせる。盛土模型、巨木柱模型、縄文時代の紹介映像

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習する場とする。

※学習手法

○古代文字スタンプ…エジプトのヒエログリフとマヤ文字のスタンプを用意し、名前や来館日等を古代の絵文字で押して、持ち帰られるように

している。

○土器の立体パズル…縄文の火炎土器とアンデスの罎形土器を電磁石で組み立て、資料復元のミニ体験ができるようにしている。

○Q&Aコーナー…タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。

○スタンプラリー…展示室内9ヶ所にスタンプを設置し、各文明の建物や器・土偶などのスタンプを押せるようにしている。

美術展示室

1.展示目的

芸術は古来より人の精神性に深く関わり、洗練されてきた。万人に通ずる清明正直な美の世界から、高い感性を培うことを目的としている。

2.展示内容

光記念館地下2階には展示室が4室ある。この4室を特別展の内容に合わせて配分し、特別展と美術のコレクション展示とに使用している。

当館は浮世絵の作品が充実しており、肉筆画：約420点、版画：約220点のコレクションは日本有数といえる。またこの他に、近・現代の日本画が約300点、書が約250点ある。コレクション展示ではこれらの中から特に、日本画・書の展示を行い、作品の保護を考慮して年に3回展示替えを行っている。

平成22年「春」

分類	作品	作者	制作年
日本画	蓬萊山	横山大観	昭和14年
	椿図	堅山南風	昭和3～5年
	晴れ間	上村松園	昭和14～15年頃
	桜花美人	門井掬水	
	花鳥図	狩野栄信	
	梅に鷹之図	狩野梅笑	寛政7年 1795年
	花の山	鍋木清方	昭和初期
	夜桜	加山又造	昭和57年
	天竺牡丹之図	岸田劉生	大正11年
	牡丹双鳩	児玉希望	
	春紅	佐多芳郎	昭和59年
	椿	佐多芳郎	昭和55年
	黄花白鶴図	高森碎巖	
	香富貴	竹内栖鳳	昭和5～10年頃
	若菜つみ	立石春美	
	舞妓	寺島紫明	
	花鳥図	堂本印象	昭和25年頃
	天覧盆栽図	富岡鉄斎	
	薄紅梅	前田青邨	大正12～15年頃
書	愚	板倉大河	平成3年
	漢詩「落花生暖干船襪…」	勝海舟	江戸・明治
	書簡	西郷隆盛	幕末
	漢詩	鈴木天城	
	宝祚之隆天壤無窮	高橋泥舟	幕末
	現生不退	手島右卿	昭和36年
	拜	中井史朗	
	打坐	藤田金治	平成9年
	勤皇志士	藤田小四郎	

分類	作品	作者	制作年
	会津八一歌	堀桂琴	昭和49年
	随順	棟方志功	昭和1年頃～50年
	二行書	山岡鉄舟	幕末～明治21年
	書簡	横山大観	大正初期
工芸	再興日本美術院 文人皿	荒井寛方	
	銘 紫雲	加藤唐九郎	昭和57年
	再興日本美術院 文人皿	川端龍子	
	再興日本美術院 文人皿	川端龍子	
	再興日本美術院 文人皿	川端龍子	
	七宝装飾刀	作者不詳	幕末～明治
	再興日本美術院 文人皿	曾	
	再興日本美術院 文人皿	橋本静水	
	再興日本美術院 文人皿	橋本静水	
	織部向付	不詳	桃山～江戸初期
	織部向付	不詳	桃山～江戸初期

平成22年「夏」

分類	作品	作者	制作年
日本画	さつき	小川芋銭	大正5年頃 1916年頃
	春秋屏風	小野竹喬	
	山居	狩野知信	
	飛騨真春	久保嶺爾	平成2年 1990年
	朝霧	西藤哲夫	昭和60年 1985年
	雪中山水	高久鸛崖	江戸後期
	風景	中平南海	
	富嶽神鐘	平福百穂	明治～昭和
	住吉ものがたり	松岡映丘	
	紅葉図	村上華岳	大正5年 1916年
	乾坤燿く	横山大観	昭和18年 1943年
	不盡山	横山大観	大正9年 1920年
	浅春	和田孝之	平成6年 1994年
書	「いまだひとり…」	青木香流	昭和40年代 1965～74年
	色	池田満寿夫	平成
	天聴	伊藤千勝	
	九天	上松一條	
	光	片岡重和	平成10年 1998年
	「古への代々の文を…」	賀茂真淵	江戸中期
	遂	桐山大綬	平成8年 1996年
	月下独酌	齋藤香坡	
	浄光	貞政少登	昭和62年 1987年
	宙	鈴木桐華	平成3年頃 1991年頃
	透	鈴木桐華	平成3年頃 1991年頃
	山	高橋泥舟	
	漢詩「穆如清風」	高橋照弘	
	疊	鶴木大寿	平成9年 1997年
	神歌	手島小華	昭和60年頃 1985年頃
	見ざる・言わざる・聞かざる	手島泰六	
	高明	手島右卿	昭和
	猿丸集断簡	伝・藤原行成	平安後期
	風	豊口広	平成10年 1998年
	夢	豊口広	
	藤原定家白筆書状	藤原定家	平安末期～鎌倉初期
	空	堀田翠堂	平成7年 1995年
	漢詩	松島楠城	平成7年 1995年
	嶺	松竹太虚	昭和62年 1987年
	虚己	南尚雲	平成5年 1993年
	汀	宮腰葵	昭和35年 1960年

分類	作品	作者	制作年
浮世絵	家族愛	吉田玉雲	
	いろは歌	伝・良寛	江戸後期
	螢狩り	岩瀬京水	文政～安政（1818～59）
	朝顔を見る女	歌川国久	享保1～文化14年/1801～17年
	虫を採る女	歌川国久	享保1～文化14年/1801～17年
	縁台美人	歌川久信	江戸後期
	爪頭描き山湖來雁図	葛飾北斎	江戸後期
	精霊祭	川枝豊信	江戸中期
	精霊流し	川又常正	江戸中期
	盆踊り	作者不詳	江戸前期
	見立源氏物語 夕顔	作者不詳	江戸前期
	柳下納涼	作者不詳	江戸前期
	灯籠を持つ遊女	作者不詳	江戸前期
	縁台美人	作者不詳	江戸中期
	蚊帳美人	作者不詳	江戸中期
	回り灯籠	作者不詳	寛永（1624～43）
	柳下縁台納涼美人	作者不詳	江戸中期
	夕涼み	作者不詳	江戸中期
	両国花火	作者不詳	江戸
	金魚鉢と母子	作者不詳	江戸後期
	立ち美人	作者不詳	江戸後期
	螢狩り	山東京伝	安永7年～寛政（1772～86）
	水鏡	春亭道人	江戸後期
	舟遊び	竹斎亭	江戸中期
	蚊帳美人	鳥高斎栄昌	寛政（1793～98）
	泉の水	月岡雪斎	宝暦～天明（1751～1786）
	蚊帳美人	梅翁軒永春	宝暦1～13年/1751～63年
	団扇持つ女	長谷川周春	明治10～20（1877～87）
	柳下納涼	宮川一笑	江戸中期
	蚊帳美人	宮川長亀	寛保（1741～43）
	鉄仙花	友禅染	江戸
工芸	白地草花図扁壺	河井寛次郎	
	琉球双耳水注	金城次郎	

平成22年「秋」

分類	作品	作者	制作年
書	得一	浅海蘇山	
	「夏すぎて…」	池田満寿夫	平成3年 1991年
	蔵	上松一條	
	蓮	上松一條	
	秘め事の文字「朝」	大杉弘子	平成4年 1992年
	天使の階段「兆」	大杉弘子	平成8年 1996年
	「言霊に…」	加藤郁乎	平成10年 1998年
	神苑の朝	川合玉堂	昭和13年 1938年
	花	北畑観欄	
	慈円の歌	国井久美子	平成11年 1999年
	千鳥と遊ぶ智恵子	小室李谿	
	児戯	斉藤青鳥	
	磊	桜井律好	平成18年 2006年
	聖観音	柴山抱海	
	大日如来	柴山抱海	
	億劫刹那	須田剋太	平成元年 1989
	近代	須田剋太	平成元年 1989
	八風吹不動	土田帆山	昭和63年 1988年
	疊	鶴木大寿	平成9年 1997年
	鶴舞	手島右卿	昭和60年 1985年
	如	戸田提山	

分類	作品	作者	制作年
	幽寂	藤井丙午	
	和歌	町春草	平成9年頃　1997年頃
	翔	村松太子	平成10年　1998年
	彪	山崎大抱	

平成23年「春」

分類	作品	作者	制作年
日本画	立田の錦	鍋木清方	
	椿	佐多芳郎	昭和55年　1980年
	賀の日	佐多芳郎	昭和59年　1984年
	義経	佐多芳郎	
	旅愁	佐藤太清	昭和61年　1986年
	炫奏舞	隅谷百世	
	御鷹図	棟方志功	昭和24年　1949年
	風神雷神図	棟方志功	昭和21年　1946年
	嵐山	横山大観	
書	山中問答	稲葉修	
	光陰如箭	井野吟紅	平成9年　1997年
	「言霊に…」	加藤郁乎	平成10年　1998年
	曉	加藤石泉	
	和歌	北川佳邑	
	撕	小島碧雲	平成9年　1997年
	新出	是永尚志	平成12年　2000年
	坐看雲起	佐々木月花	
	花	正田耀花	平成10年　1998年
	放光	角紅苑	平成13年　2001年
	杜	土屋弘鳳	平成12年　2000年
	慈	手島恭六	平成22年　2010年
	蓮	手島右卿	昭和37年　1962年
	風	豊口広	平成10年　1998年
	幽	原田圭泉	
	為	平方峰壽	
	感子標母恵	平方峰壽	
	荘厳	松井玲月	
	光明	山下海堂	
工芸	太刀　銘 康次	康次	鎌倉時代

平成23年「夏」

分類	作品	作者	制作年
日本画	美人之図	上村松園	明治～昭和
	初日	小川芋銭	大正5年頃　1916年頃
	黒馬	狩野益信	元禄　1688～1703年
	にわとり	狩野安信	江戸前期
	山鳥	川村憲邦	昭和～平成
	おくの細道	小杉放庵	昭和15年　1940年
	新雪	酒井三良	昭和24～25年 1949～1950年
	柘榴小禽図	榊原紫峰	大正12～13年頃 1923～24年頃
	扇夕顔の図	作者不詳	江戸初期
	聖徳太子絵巻	作者不詳	鎌倉時代
	聖観音図	澤田政廣	大正～昭和
	法山元正之像	仙厓	江戸後期
	臨水観音丈土図	高森碎巖	明治～大正
	秋鹿	中川一政	昭和～平成
	溪村晩靄図	橋本雅邦	明治

分類	作品	作者	制作年
	松泉清聴の図	橋本関雪	明治～昭和
	赤家富	橋本明治	昭和39年頃　1964年頃
	牡丹睡猫	速水御舟	大正15年　1926年
	芦葉達磨図	宮本武蔵	江戸初期
	飛天妃図	棟方志功	昭和33年　1958年
	墨梅	村上華岳	大正～昭和
	不盡山	横山大観	大正9年　1920年
版画	市川鯉蔵の竹村定之進	東洲斎写楽	江戸後期（寛政6～7年頃）
書	叫	青木香流	昭和
	得一	浅海蘇山	
	うつろひ	阿部朱昂	
	漢詩「藜杖全吾道」	池大雅	江戸中期
	雄志	石川雲鶴	平成9年　1997年
	連	伊藤欣石	昭和～平成
	「てふてふ　ひらひら　いらかたを　こえ　た」	岡野蒼生	平成3年頃　1991年頃
	極	柿下木冠	平成9年　1997年
	光	片岡重和	平成10年　1998年
	蕭	小島碧雲	昭和～平成
	黒	小林抱牛	昭和63年　1988年
	宸翰御消息	後陽成天皇	桃山～江戸初期
	寂聲	齋藤香坡	
	帰一	佐々木嘉邦	平成9年　1997年
	永平	貞政少登	昭和～平成
	万葉の五歌	沢田明子	平成13年　2001年
	勉	鈴木天城	昭和～平成
	○	須田剋太	
	和歌	伊達綱村	江戸前～中期
	鳴門	手島右卿	昭和62年　1987年
	輝	仲川恭司	昭和48年
	堀口大學の詩	濱田崇湖	平成10年　1998年
	嶺	松竹太虚	昭和62年　1987年
	雲	南不乗	昭和60年頃　1985年頃
	寿星拜日讃	柳沢淇園	江戸中期
	巍	山崎大抱	昭和60年　1985年
	家族愛	吉田玉雲	
洋画	アメリカ人闘牛士 マリアノ・セバージョス	エウヘニオ・ルーカス・ベラス ケス	1825年頃
	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ベル	1920年
	画家とモデル	ギユスターヴ・コラン	
	岸辺の小舟（ヴィル・ダブレー）	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロー	1865～70年頃
	木を拾う人	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロー	1855年頃～1875年
	羊の居る風景	ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロー	1869年
	川の女神の姿をした婦人の肖像	ジャン＝マルク・ナティエ	
	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ゴッホ	1885年頃
	ポーズの風景	モーリス・ド・ヴラマンク	1940年
	海	モーリス・ド・ヴラマンク	1920年頃～55年
	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939年頃

平成23年「秋」

分類	作品	作者	制作年
日本画	御点前	伊東深水	昭和41年頃
	わか葉頃	上村松園	昭和14年頃
	霽の葉かげ	鍋木清方	昭和38年頃
	群鶴図	加山又造	昭和～平成

分類	作品	作者	制作年
	清遊	下田義寛	昭和60年
	麒麟図	富田溪仙	大正14年
	不二霊峰	横山大観	昭和11年頃
浮世絵	日・龍・月	葛飾北斎	江戸後期
版画	二代目小佐川常世の一平姉 おさん	東洲斎 写楽	江戸後期（寛政6～7年頃）
洋画	アメリカ人闘牛士 マリアノ・セバージョス	エウヘニオ・ルーカス・ベラスケス	1825年頃
	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ベル	1920年
	画家とモデル	ギュスターヴ・コラン	
	羊の居る風景	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1869年
	木を拾う人	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1855年頃－1875年
	岸辺の小舟（ヴィル・ダブレー）	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1865～70年頃
	川の女神の姿をした婦人の肖像	ジャン＝マルク・ナティエ	
	白いドレスを着た娘	トーマス・ロス	18世紀前半
	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ゴッホ	1885年頃
	海	モーリス・ド・ヴラマンク	1920年頃～55年
	ボースの風景	モーリス・ド・ヴラマンク	1940年
	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939年頃
書	うつろひ	阿部朱昂	
	雄志	石川雲鶴	平成9年　1997年
	連	伊藤欣石	昭和～平成
	天聴	伊藤千勝	
	光陰如箭	井野吟紅	平成9年　1997年
	花野	大石千世	昭和61年　1986年
	ステラのニシェ～石版の扇・窪み～	大杉弘子	
	夢	岡野雅行	平成12年　2000年
	極	柿下木冠	平成9年　1997年
	光	片岡重和	平成10年　1998年
	瀟灑風流	川谷尚亭	明治
	和歌	北川佳邑	
	漢詩「空煙沙月…」	日下部鳴鶴	
	蕭	小島碧雲	昭和～平成
	月下独酌	齋藤香坡	
	帰一	佐々木崑邦	平成9年　1997年
	浄光	貞政少登	昭和62年　1987年
	花	正田耀花	平成10年　1998年
	烟花	角紅苑	
	漢詩「穆如清風」	高橋照弘	
	無事	戸田提山	平成7年　1995年
	輝	仲川恭司	昭和48年
	漢詩「黒風萬騎卷…」	比田井天来	明治
	感子標母恵	平方峰壽	
	空	堀田翠堂	平成7年　1995年
	会津八一歌	堀桂琴	昭和49年　1974年
	雲	南不乗	昭和60年頃　1985年頃
	翔	村松太子	平成10年　1998年
	憶	山崎素聖	平成13年　2001年
	舞	山崎大抱	

〈能舞台〉

能・狂言は約700年もの間守り継がれてきた日本の伝統芸能である。能舞台、能面、能装束などの展示や解説を通して、目に見えない世界や幽玄の世界をも表現する能の、深奥で研ぎ澄まされた芸術性や、人間の本質を突く喜劇 狂言の面白さを伝える。

また、能・狂言に限らず、能舞台上で日本の伝統芸能を披露することもある。

【展示資料】

可動式　総桧造りの能舞台。能装束：『羽衣』 『猩々』用など。能面：『黒色尉』 『白色尉』 『増』 『猩々』。

【60インチプロジェクター映像】

能：『舞囃子 高砂』 『羽衣』 『猩々』 『猩々 乱』
狂言：『栗焼』 『口真似』
日本舞踊：長唄 『二人槐久』　長唄 『京鹿子娘道成寺』
琵琶：『幻の星　阿倍仲麻呂』　『琵琶についてのお話』 『平家物語 ― 巻九　敦盛の最期より祇園精舎・一の谷』

特別展示

広重 名所江戸百景と歌川派展

開催期間
平成22年2月26日（金）～5月16日（日）

作品点数
42点

後援
岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要
江戸後期の浮世絵師 歌川広重（1797～1858年）の最晩年の作品となった「名所江戸百景」は、安政3（1856）年から同5（1858）年にかけて描かれた、広重の画業の中でも最大数を誇る浮世絵版画の連作である。江戸の何気ない風景が斬新な構図で描かれ、視覚的な面白さばかりでなく、多版刷りの技術にも目を見張るものがある。
また“ジャポニズム”の代表作として、ゴッホやモネなど西洋の画家に多大な影響を与えたことでも知られている。
本展では「名所江戸百景」より四季折々の風景約30点と、歌川派の肉筆浮世絵を数点展示した。



展示の様子



展示作品

分類	作品	作者	制作年
版画	両ごく回向院元柳橋	歌川広重	江戸後期
	筋違内八ツ小路	//	//
	下谷廣小路	//	//
	芝愛宕山	//	//
	廣尾ふる川	//	//
	目黒千代か池	//	//
	隅田川水神の森真崎	//	//
	墨田河橋場乃渡かわら竈	//	//
	日本橋江戸ばし	//	//
	日本橋通一丁目略圖	//	//
	角筈熊野十二社俗称十二そう	//	//
	糀町一丁目山王祭祢り込	//	//
	大はし阿たけの夕立	//	//
	両國橋大川ばた	//	//
	浅草川首尾の松御殿河岸	//	//
	五百羅漢さゝる堂	//	//
	大傳馬町こふく店	//	//
	鉄炮列稻荷橋湊神社	//	//
	月乃岬	//	//
	目黒爺ゝが茶屋	//	//
	紀乃國坂赤坂溜池遠景	//	//
	井乃頭乃池弁天の社	//	//
	猿わか町よるの景	//	//
	堀江祢こざね	//	//
	千住乃大はし	//	//
	深川木場	//	//
	芝うら乃風景	//	//
	千束の池袈裟懸松	//	//

分類	作品	作者	制作年
肉筆浮世絵	目黒太鼓橋夕日の岡	歌川広重	江戸後期
	虎の門外阿ふひ坂	//	//
	高田乃馬場	//	//
	高田姿見のはし俵乃橋砂利場	//	//
	二見ヶ浦	歌川国継	//
	三世坂東三津五郎	歌川国久	//
	本を読む女	歌川国英	//
	牛に乗る美人	歌川国満	//
	緑台美人	歌川国芳	//
	二美人と子供	歌川豊久	//
	浅間山	歌川広重	//
	桜下美人	月岡芳年	江戸後期～明治25年
	五俳優	豊原国周	江戸後期～明治33年
	娘と子供	橋本周延	江戸後期～明治44年

きらめきの誕生石展

開催期間

平成22年5月22日(土)～9月5日(日)

作品点数

約125点

協力

国立科学博物館、横浜国立大学

後援

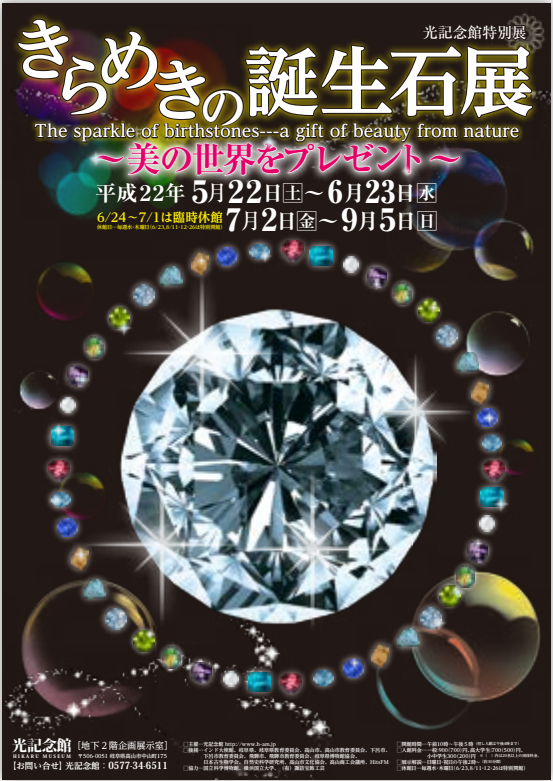
インド大使館、インド政府観光協会、岐阜県、岐阜県教育委員会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、岐阜県博物館協会、(社)高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

親しみ深い誕生石を切り口として、鉱物利用の表舞台である宝石の「美」を、裏舞台としてレアメタルの「用」を中心に紹介した。
また、希少なサファイヤを中心として自然の創り出した`美しい鉱物`も展示し、美の世界を表現した。
更に結晶に特徴のある`面白い鉱物`、`淡く光る`蛍光石、`その他ツートンカラーの宝石`アメトリン、やアンモナイト化石が宝石になった`アンモライト`を展示。また宝飾鉱物で`枯山水`を創作した。
学習面では、目で見える`人工結晶`・`天然結晶`の展示、夏休み自由研究シート、「鉱物を利用した工作・飾り物」の展示と作り方シート、体験学習、クイズラリーなどを用意し、楽しみながら学べるものを多数揃えた。

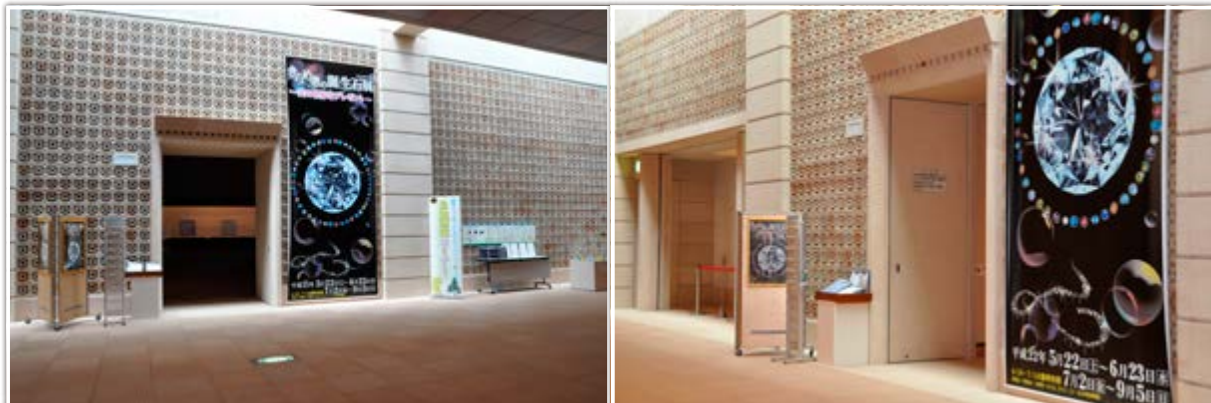
展示概要

☐ごあいさつ ☐鉱物とは ☐鉱物のできかた ☐レアメタルとは ☐レアメタルと環境 ☐蛍光鉱物とは
☐宝石の「美」ー鉱物の「美」 ☐生活に役立つレアメタル ☐環境問題と私たちの生活 ☐日本のレアメタル
☐どうして蛍光鉱物は光るの？

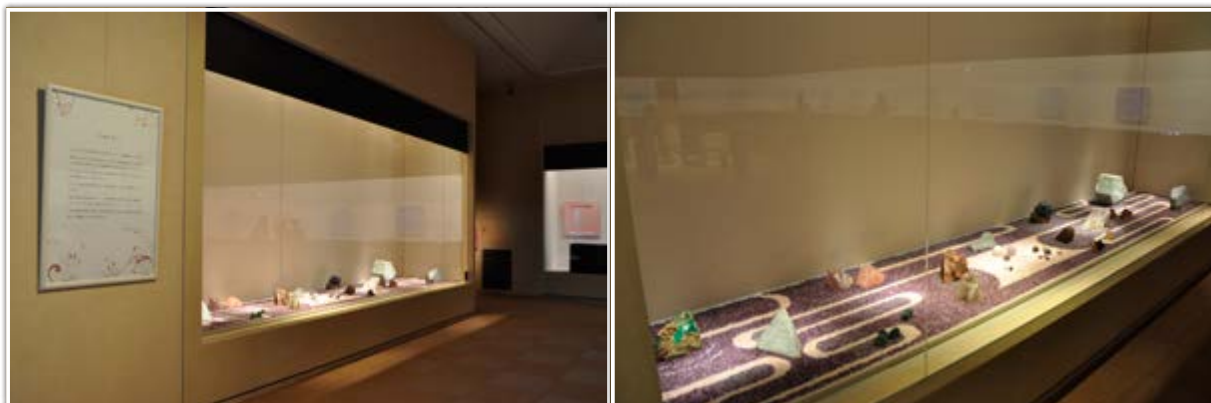


展示の様子

《入り口付近の様子》



《ごあいさつ・枯山水の展示》



《展示室の壁に沿って月ごとの誕生石を展示》



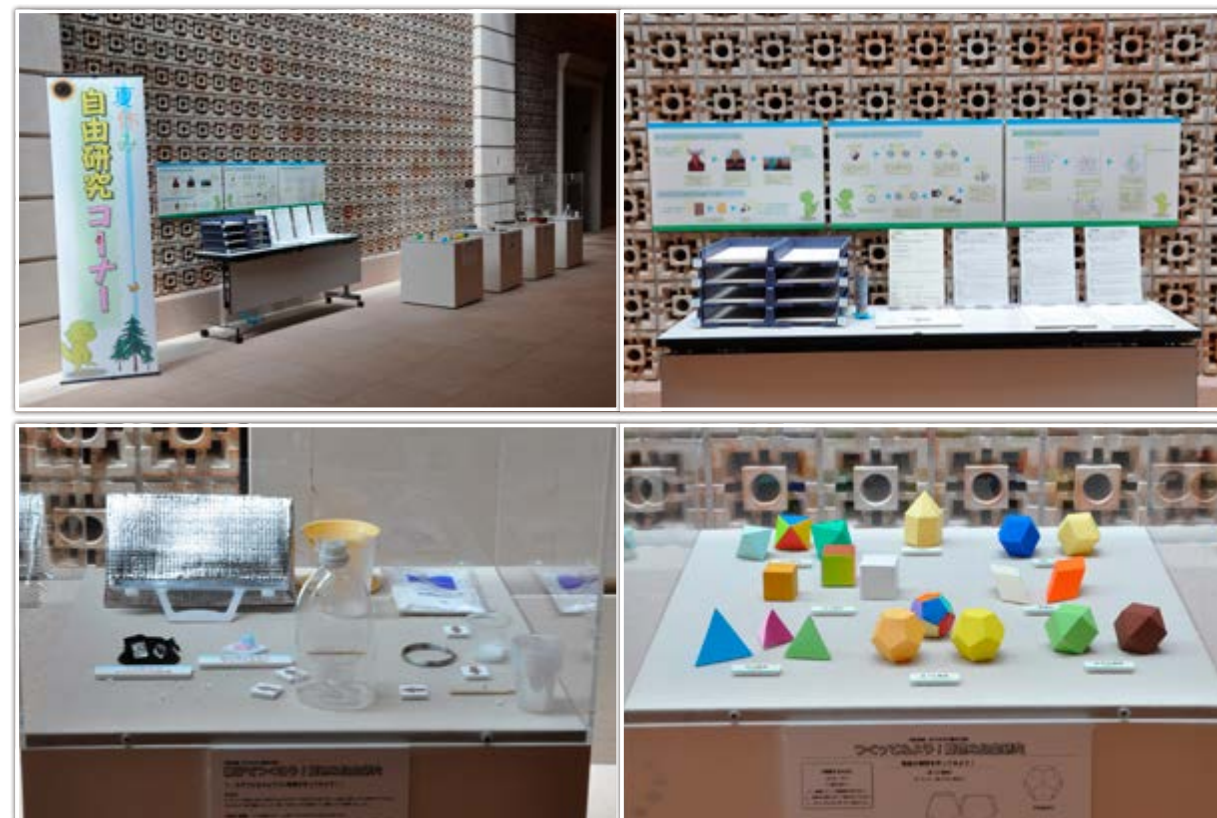
《展示室の中央に鉱物の学習向け展示》



《鉱物の展示》



《夏休みの自由研究コーナー》



屏風 伝統と革新展

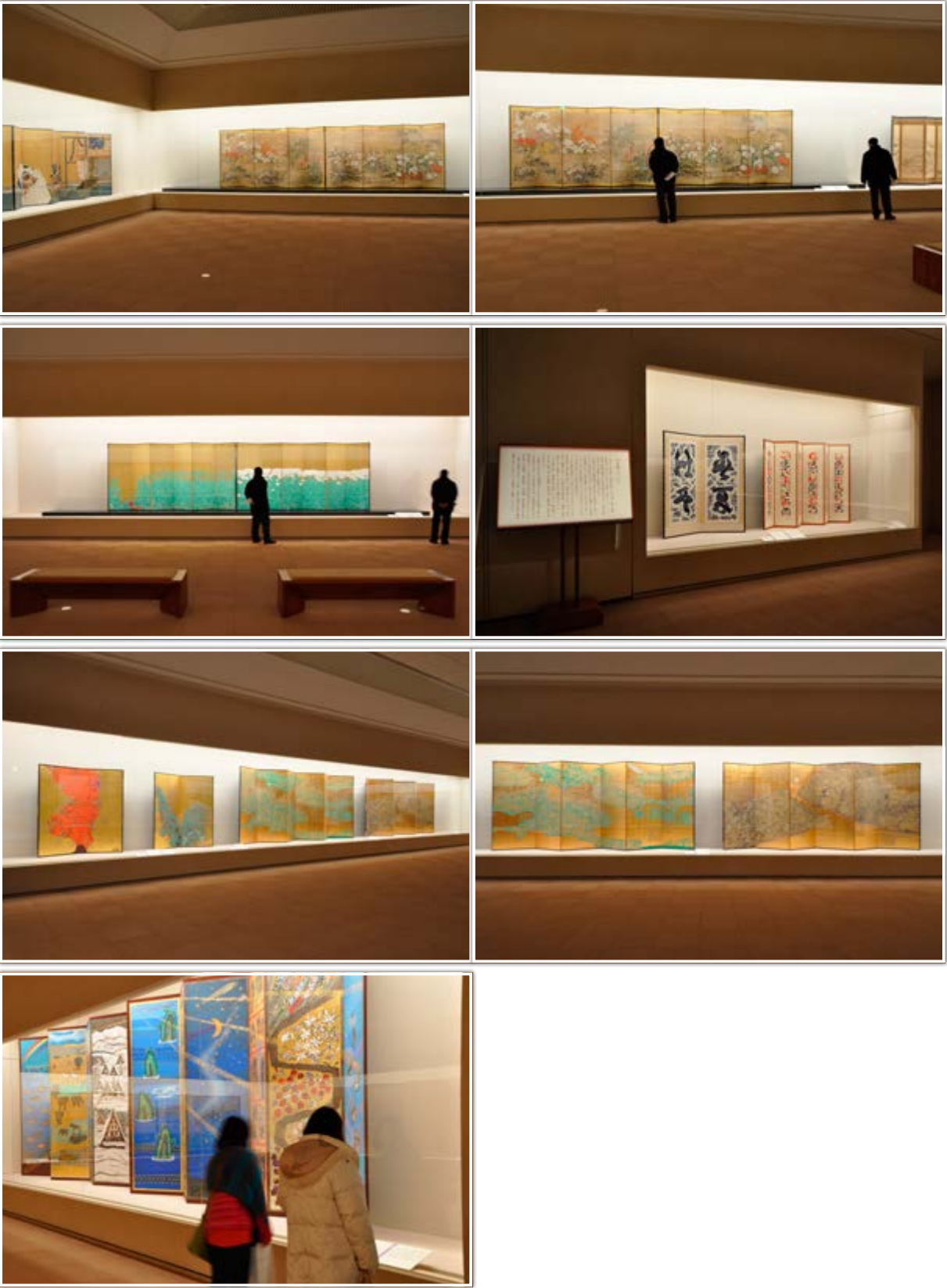
開催期間
平成22年9月11日（土）～12月12日（日）

作品点数
15点

後援
岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要
風よけや部屋の仕切り、装飾品などとして様々な用途を持つ屏風は、絵や書が施され、多くは鑑賞品として発展してきた。もともとは中国で板状のものを革ひもなどでつないだことに始まるが、日本に伝わると折りたたみ式に形を変え、永い年月をかけて日本独自の形状をもつようになった。二曲、四曲、六曲、一隻、一双などの形態が生み出す立体的空間表現は、絵画としての新たな可能性と面白さを内包し、そこに二次元を超えた世界を展開していった。
本展では、江戸時代から現代までの光記念館屏風コレクションを通し、受け継がれてきた伝統的な作品と現代作家の革新的作品の両者をご覧いただいた。

展示の様子



展示作品

分類	作品	作者	制作年
屏風	夏秋草図	今井俊満	昭和62（1987）年
	夏草図	今井俊満	昭和61（1986）年
	秋草図	今井俊満	昭和61（1986）年
	龍田川	今井俊満	昭和61（1986）年
	あめつち光あまねく	上野泰郎	平成11（1999）年
	夏冬山水	川合玉堂	大正10（1921）年
	誰ヶ袖の図	作者不詳	江戸時代初期
	中国玉屏風	作者不詳	
	農耕十二ヶ月の図	作者不詳	江戸時代
	いろは歌	芹沢銈介	昭和33（1958）年
	春夏秋冬	芹沢銈介	昭和40（1965）年
	四季草花図屏風	宗達工房	江戸時代初期
	百花朝鳳	中国北京七宝焼研究所	
	花鳥図屏風	春木南溟	
罌粟	前田青邨	昭和5（1930）年	

あなたはゴッホ？それとも写楽！？

開催期間

平成23年2月26日（土）～5月22日（日）

作品点数

36点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

館所蔵の洋画を初公開し、西洋の画家に多大な影響を与えた浮世絵と共に展示した。また、明治以降、西洋から学んだ日本の洋画も合わせてご覧いただいた。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者	制作年
油彩	川の女神の姿をした婦人の肖像	ジャン＝マルク・ナティエ	1718年頃－1766年
	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ベル	1920年
	画家とモデル	ギュスターヴ・コラン	1857年頃－1910年
	木を拾う人	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1855年頃－1875年
	羊の居る風景	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1869年
	岸辺の小舟（ヴィル・ダヴレー）	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1865～70年頃
	波	ギュスターヴ＝クールベ	1869年
	ジヴェルニーの草原、朝	クロード・モネ	1888年
	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ゴッホ	1885年
肉筆浮世絵	立ち美人	溪斎英泉	江戸後期（文化12年頃～嘉永1年）
版画	二代目小佐川常世の一平姉おさん	東洲斎写楽	江戸後期（寛政6～7年頃）
	名所江戸百景『玉川堤乃花』	歌川広重	江戸後期（安政3～5年頃）
	名所江戸百景『堀江祢こざね』	歌川広重	江戸後期（安政3～5年頃）
	名所江戸百景『よし原日本堤』	歌川広重	江戸後期（安政3～5年頃）
	青樓七小町 若那屋内白露	喜多川歌麿	江戸後期（寛政～文化3年）
	富嶽三十六景『東海道程ヶ谷』	葛飾北斎	江戸後期（天保2年頃）
	富嶽三十六景『神奈川沖浪裏』	葛飾北斎	江戸後期（天保2年頃）
ペインティング	テアトル	パブロ・ピカソ	1967年
書籍	『PICASSO THEATRE 1967』の校正刷	パブロ・ピカソ	1967年
油彩	聖衣剥奪	エル・グレコ工房	17世紀初頭
	キリストの洗礼	ジョルジュ・ルオー	1918年頃～1958年
	海	モーリス・ド・ヴラマンク	1920年頃～55年
	ボースの風景	モーリス・ド・ヴラマンク	1940年
	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939年頃

分類	作品	作者	制作年
	アメリカ人闘牛士 マリアノ・セバージョス	エウヘニオ・ルーカス・ベラスケス	1825年頃
	海	藤島武二	1933（昭和8）年
	熊の湯雪景	熊谷守一	1937（昭和12）年頃～1977（昭和52）年
	暑中休暇の校庭	坂本繁二郎	1915（大正4）年
	薔薇図	梅原龍三郎	1941（昭和16）年
	椿	岸田劉生	1927（昭和2）年
	冠鶴	須田国太郎	1941（昭和16）年
	粧える女	林 武	1953（昭和28）年
	婦人像	宮本三郎	1961（昭和36）年
	栗とレンガと猿のこしかけ	山口 薫	1950（昭和25）年頃～1968（昭和43）年
ガラス工芸	季節の鳥	脇田 和	1955（昭和30）年～1998（平成10）年頃
	ランプ（ヒトヨタケ）	エミール・ガレ	1903年

謎の文明インカ・マヤ展

開催期間

平成23年5月28日（土）～9月4日（日）

作品点数

102点

後援

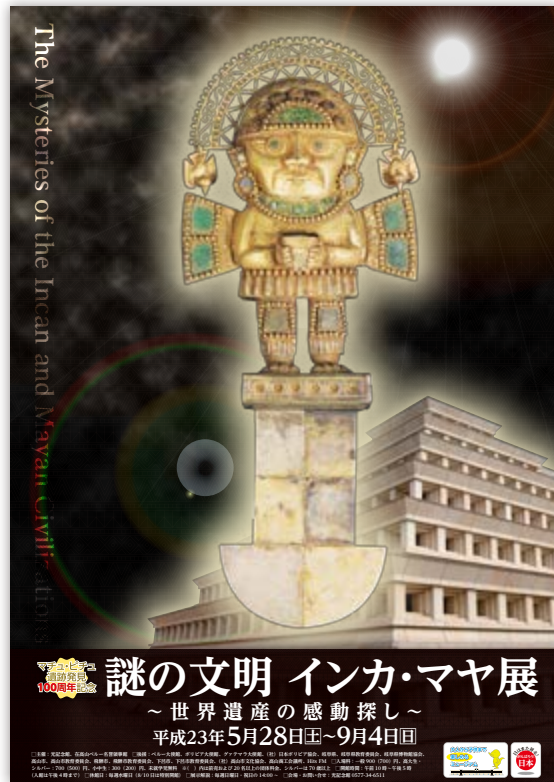
ペルー大使館、ボリビア大使館、グアテマラ大使館、
（社）日本ボリビア協会、岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示目的

2011年は、世界遺産マチュ・ピチュ遺跡が発見されて100周年に当たる。光記念館では、これを記念して「謎の文明 インカ・マヤ展」を開催した。かつて、南米にはインカ、中米にはマヤに代表される高度な古代文明が繁栄した。光記念館の建物はマヤ建築を現代的にアレンジしたものであり、人類史展示室には中南米の資料も多数展示している。また、当館理事長はペルー大使館名誉領事であり、高山市がマチュピチュ遺跡のあるペルー共和国クスコ県ウルバンバ郡と友好交流を開始したということもあって、近年ペルーとは縁が深くなっている。本展は、中南米古代文明世界の魅力を児童・生徒にも分かりやすく紹介し、ご家族で楽しく学んでいただく事を目的とした。

展示概要

南米・中米にはインカ・マヤに代表される高度な古代文明が繁栄した。インカ文明は紀元1400年～1532年頃、マヤ文明は紀元600年～900年頃に最盛期を誇り、巨石を加工した神殿やピラミッドを建設し、各都市を結ぶネットワークを確立していた。そして、インカやマヤ以外にもこの地域には沢山の古代文明が栄枯盛衰を繰り返し、黄金や織物、石彫加工などの文化を発展させていった。本企画展では、インカ・マヤを足がかりに、中央アメリカのメソアメリカ文明や中間領域、南米アンデス地方に繁栄したアンデス文明など、ユニークで謎に満ちた様々な古代文明を衣食住など、分かりやすい分野から紹介・比較し、現在にまで連綿と続く古代世界の魅力を、当館所蔵の実物資料・写真・映像・イラスト・模型・体験グッズなどと共に紹介した。



展示の様子





展示作品

資料名	地域	時代・文化
金製儀式用ナイフ	ペルー北部海岸	チムー文化
金製仮面	ペルー北部海岸	シカン文化
金製人面飾り	ペルー北部海岸	チムー文化
金製飾り	ポリビア、チチカカ湖	ティワナク文化
金製飾りピン	ペルー北部高地	レクワイ文化
箱型帽子付き羽根人面	ペルー南部海岸	パラカス文化
人物土偶	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
人物座像	ポリビア、チチカカ湖	ティワナク文化
人物形壺	ペルー北部海岸	チムー文化
人物文様円筒土器	ペルー南部海岸	ナスカ文化
銀製仮面	ペルー北部海岸	チムー文化
銀製仮面	ペルー北部海岸	チムー文化
銀製装飾品	ペルー	インカ文化
羽根冠	ペルー南部海岸	ナスカ文化
アンタラ笛	ペルー南部海岸	ナスカ文化
青銅三角大鈴	ペルー北部海岸	チムー文化
ピューマ・蛇文様太鼓	ペルー南部海岸	パラカス文化
十六菊花文・カニ戦士鎧形壺	ペルー北部海岸	モチェ文化
ピューマ形香炉	ポリビア、チチカカ湖	ティワナク文化
植物文様木製ケーロ	ポリビア、チチカカ湖	インカ文化
銀製猿付きピン	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
鳥形銀製品	ペルー北部海岸	チムー文化
エビ鎧形壺	ペルー北部海岸	チムー文化
バカ工鎧形壺	ペルー北部海岸	チムー文化
銀象眼木製ケーロ	ペルー	インカ文化
家屋鎧形壺	ペルー北部海岸	モチェ文化
銀製トウモロコシ形壺	ペルー北部海岸	チムー文化
鳥文様羽根織り布	ペルー北部海岸	チムー文化
鳥文様羽根織り布	ペルー海岸	ワリ文化
羽根織り貫頭衣	ペルー南部海岸	ナスカ文化

資料名	地域	時代・文化
人物文様羽根織貫頭衣	ペルー南部海岸	ワリ文化
太陽文様羽根織り布	ペルー南部海岸	ナスカ文化
動物文様羽根織り貫頭衣	ペルー北部海岸	チムー文化
波文様羽根織り布	ペルー南部海岸	イカ・チンチャ文化
絞り染パッチワーク	ペルー海岸地域	ワリ文化
人物文様刺繍布	ペルー南部海岸	パラカス・ネクロポリス文化
猫科動物文様刺繍布	ペルー南部海岸	パラカス・ネクロポリス文化
動物文様刺繍布	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
人面編み織縁飾り	ペルー南部海岸	ナスカ文化
魚文様綴れ織布	ペルー北部海岸	チムー文化
魚文様刺繍布	ペルー南部海岸	ナスカ文化
魚文様描き染め布	ペルー海岸	ティワナク文化
鳥・蛇文様レース	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
エビ文様綴れ織布	ペルー北部海岸	チムー文化
衣装付き人物像	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
サル・鳥文様羽根織り布	ペルー北部海岸	チムー文化
市松文様貫頭衣	ペルー南部海岸	インカ文化
ミイラ包み頭部	ペルー中部海岸	チャンカイ文化
投石紐（オンダ）	ペルー南部海岸	イカ・チンチャ文化
神像骨壺	メキシコ、オアハカ州	モンテ・アルバンⅢ期
人物文様円筒土器	グアテマラ、ペテン州、中央低地	マヤ古典期後期
テオティワカン様式大型香炉	グアテマラ、太平洋岸	マヤ古典期前期
スタッコ製人面	メキシコ	古典期後期
スタッコ製トラロック面	メキシコ	古典期後期
スタッコ製神官面	メキシコ	マヤ古典期後期
蛙文様石製ユーゴ	メキシコ、ベラクルス州	古典ベラクルス文化期
人物・文字文様円筒土器	マヤ中部低地	古典期後期
ジャガー付き香炉	グアテマラ高地アティトラン湖中	マヤ古典期後期
人物形オカリナ		
人物形オカリナ	グアテマラ中央南部低地	マヤ古典期後期
人物形オカリナ	グアテマラ南部太平洋斜面	マヤ古典期前期
親子形オカリナ	グアテマラ、ペテン州、中央低地	マヤ古典期後期
蛙形長頸壺	グアテマラ太平洋岸	マヤ古典期前期
ジャガー一面付き土器	グアテマラ中央高地	マヤ古典期後期
猿文様鉢	マヤ中部低地	マヤ古典期後期
蛸文様浅鉢	グアテマラ、ペテン州、中央低地	マヤ古典期後期
虫・文字文様土器	グアテマラ、ペテン州、中央低地	マヤ古典期後期
長頸壺	グアテマラ、高地	先古典期前期
儀式場面彩色鉢	グアテマラ、ペテン州、中央低地	マヤ古典期後期
翡翠製飾り玉	グアテマラ太平洋側斜面	マヤ先古典期後期
翡翠製飾り玉	グアテマラ太平洋側斜面	マヤ先古典期後期
筵・文字文様鉢	マヤ中部低地	マヤ古典期後期
人面双耳壺	グアテマラ南部太平洋斜面	先古典期後期
片耳浅鉢	メキシコ中央高原	アステカ文化
人面三足鉢	メキシコ、中央高原	テオティワカン文化
人物形オカリナ	グアテマラ、中央低地	マヤ古典期後期
人物土偶	グアテマラ、中央南部低地	マヤ古典期後期
拓本 マチャキラー3号石碑		
拓本 ティカル 1号石碑		
拓本 ティカル 16号石碑		
拓本 ティカル 19号石碑		
拓本 ティカル 22号石碑		
拓本 ティカル 5号祭壇		
拓本 セイバル 1号石碑		
拓本 セイバル 8号石碑		
拓本 セイバル 10号石碑		
拓本 セイバル 11号石碑		
拓本 ピエドラス・ネグラス 12号石碑		

資料名	地域	時代・文化
拓本 ピエドラス・ネグラス 13号石碑		
金製動物形飾り	コスタリカ南部ディギス地区	
金製鼻飾り	コロンビア、カウカ川上流地域	カリマ文化
金製ペンダント	コロンビア中央地域、カウカ谷	キンバヤ文化
金製飾り	コロンビア、カウカ川上流地域	カリマ文化
金製神官ペンダント	コロンビア、パナマ地域、アトラト川	ダリエン文化
金製唇飾り	コロンビア北東部	タイロナ文化
金製円盤飾り	コロンビア中央高地	ムイスカ文化
金製円盤飾り	コロンビア中央地域、カウカ谷	キンバヤ文化
金製壺を持つ人物ペンダント	コロンビア	
金製男性ペンダント	コロンビア	
金製人物ペンダント	コロンビア	
金製サルペンダント	コロンビア	
金製カメペンダント	コロンビア	

書を世界に広めた男 手島右卿展

開催期間

平成23年9月15日（木）～12月12日（月）

作品点数

47点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

手島右卿は、現代書のパイオニアとして少字数書の象書（文字の内容に相応しい形の書を創作すること）という全く新しい様式美を創始し「書の世界性」を顕した。
本展では右卿生誕110年を記念し、若き頃から晩年に至るまでの代表作を展示した。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者	制作年
書	昭和天皇后兩陛下御肖像画	手島右卿	昭和3年
	臨 哀冊	//	昭和11年
	自画像	//	昭和19年
	山行	//	昭和23年
	背山臨濤	//	昭和24年
	山居秋暝	//	昭和25年
	人生徳	//	昭和27年頃
	彈琴	//	昭和30年
	茜雲	//	昭和31年
	仙厓詩	//	昭和32年
	崩壊	//	昭和32年
	通	//	昭和32年
	現有滅不滅	//	昭和33年
	捫風	//	昭和34年

分類	作品	作者	制作年
	吟月	手島右卿	昭和34年
	岳雲	//	昭和35年
	幽人獨在雪月中	//	昭和40年
	杜甫絕句	//	昭和40年
	碧水忽開新鏡面 青山都是好屏風	//	昭和40年
	鳩啼山閣雨 鶯出宮牆花	//	昭和42年
	龍虎	//	昭和42年
	憫農	//	昭和42年頃
	鈍	//	昭和43年
	高句麗	//	昭和44年頃
	飛	//	昭和45年
	彈	//	昭和47年頃
	臨 六朝写經	//	昭和48年
	左龍右虎	//	昭和49年
	圓月上寒山	//	昭和49年
	嵐	//	昭和50年
	遲	//	昭和50年
	万葉歌	//	昭和52年
	常楽我浄	//	昭和53年
	幻奇	//	昭和55年
	歸一	//	昭和56年
	楼	//	昭和56年
	灑	//	昭和56年
	貞	//	昭和56年
	雪華	//	昭和56年頃
	江上三千里	//	昭和56年頃
	飄	//	昭和57年
	燃	//	昭和58年
	値	//	昭和58年
	天戸開人	//	昭和59年
	道法自然	//	昭和61年頃
	雷音	//	昭和62年
	以虚入盈	//	昭和62年

企画展示

守谷隆一写真展～襲色目～

開催期間
平成22年2月26日（金）～5月16日（日）

作品点数
24点

展示概要
守谷隆一は乗鞍岳山頂で息をのむ光景を前に、ひとり数億年来の悠久と下天の人間の小ささを想って以来、日本の四季、天の創造を撮り続けた写真家である。眼に見えぬ大きな力に動かされ無心でシャッターをきった彼が、風景のなかに現れてくる日本の伝統色を“襲色目”として発表した作品の中より展示した。



展示の様子



展示作品

分類	作品	作者	制作年
写真	霧ヶ峰（長野県）	守谷隆一	
	乗鞍剣ヶ峰（長野県）	//	
	吉野山（奈良県吉野）	//	
	橋杭岩（和歌山県串本）	//	
	本栖湖（山梨県）	//	
	白川郷（岐阜県）	//	
	上高地（長野県）	//	
	善五郎の滝（長野県安曇野）	//	
	名古屋城（名古屋市）	//	
	本郷の桜（奈良県大宇陀）	//	
	木祖村（長野県）	//	
	付知峡（岐阜県）	//	
	白浦海岸（三重県海山）	//	
	長谷寺（奈良県桜井）	//	
	乗鞍高原（長野県安曇野）	//	
	横岳（長野県）	//	
	甘利山（山梨県）	//	
	乗鞍高原（長野県安曇野）	//	
	ウメモドキ（愛知県下山村）	//	
	高ボッチ高原（長野県）	//	
	残り柿（愛知県作手）	//	
	乗鞍高原（長野県安曇野）	//	
	紅の岩（愛知県鳳来町）	//	
	不易の滝（長野県）	//	

光記念館人類史展示室リニューアル展

開催期間

平成22年2月26日(金)～12月12日(日)

作品点数

約160点

展示目的

人類史展示室では児童・生徒にも分かりやすい展示を目指し、実物資料と共に解説文やイラストを入れたグラフィックを展示した。これまでに何度か展示替えを行ったが、細かい解説文より写真やイラストの方が老若男女に受け入れられやすく、よく展示を見ていただけていることが分かってきている。その為、デザインを重視した展示を行い、世界各地の古代文明を比較しやすいよう工夫した。

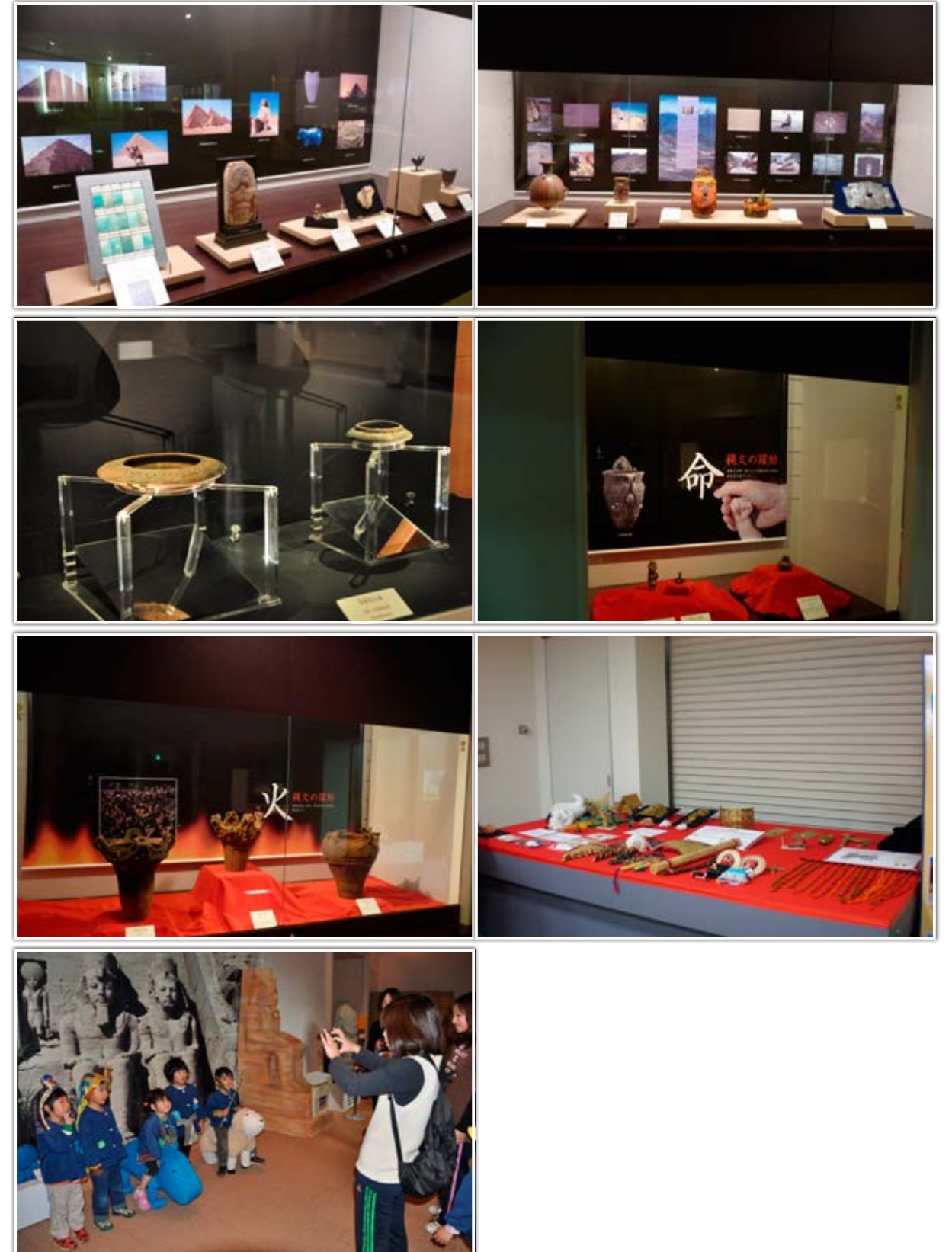
展示概要

グラフィックは黒を貴重としたデザインとし、古代に発達した各文明の解説文に、遺跡・遺物、現在の風景・人々の暮らしなどの写真をふんだんに盛り込んだ。

日本の縄文土器・土偶の展示では、縄文人が自然崇拜の思いを土に表現した様子を紹介した。

大人は資料をじっくり見られるよう、そして、児童・生徒はスタンプラリーと体験学習で楽しく学べるようにした。

展示の様子



展示作品

資料名	地域	時代・文化
神官文様双耳壺	中米	マヤ古典期後期
神面石彫	中米	マヤ古典期後期
蓋付き人面象形壺	中米	マヤ古典期後期
儀式場面彩色鉢	中米	マヤ古典期後期
人物浮き彫り石彫	中米	マヤ古典期前期
文字模様鉢	中米	マヤ古典期後期
三足土器	中米	マヤ古典期前期
人物石彫	中南米	サン・アグスティン
人物座像	中南米	キンバヤ文化
金製鼻飾り付き人物座像	中南米	キンバヤ文化
人物座像	中南米	キンバヤ文化
猫科動物文様鍔形壺	南米	クピスニケ文化
神面文様ケー口	南米	ティワナク文化
戦士文様鍔形壺	南米	モチェ文化
動物文様鉢	南米	ナスカ文化
アリバ口尖底壺	南米	ティワナク文化
杯を持つ人物壺	南米	チャンカイ文化
金製儀式用ナイフ	南米	チムー文化
十字文様綴れ織布	南米	ナスカ文化
人物文様綴れ織布	南米	チャンカイ文化
ジャガー文様布	南米	イカ文化
首級・槍を持つ戦士文様綴れ織布	南米	パラカス・ネクロポリス
鳥文様綴れ織布	南米	チャンカイ文化
G I 神面付き彩色大かめ	中米	古典期前期
神像骨壺	中米	古典期
大理石円筒印章	西アジア	シュメール文化、初期王朝
石灰岩牛形印章	西アジア	ウルク〜ジェムデッド・ナスル期
楔形文字入り土製釘	西アジア	シュメール文化、初期王朝
地母神土偶	西アジア	
碑銘のレンガ	西アジア	新バビロニア文化
碑銘のレンガ	西アジア	新バビロニア文化
十六花卉・人物印章	西アジア	アケマネス朝ペルシア
十六菊花文飾り	西アジア	アッシリア文化
人物立像土偶	西アジア	
練りガラス腕輪	西欧	シリア
練りガラス腕輪	西アジア	ローマ期
テラコッタ・ヴィーナス像	西欧	ヘレニズム文化
アッティカ式赤絵高杯	西欧	アブリアン
トンボ玉ネックレス	西欧	ローマ期
トンボ玉ネックレス	西欧	ローマ期
少年頭部塑像	西欧	ヘレニズム文化
練りガラス壺	西欧	ローマ期
ワイン壺・アンフォラ	西欧	エトルリア文化
練りガラス小瓶	西欧	ローマ期
銀化片耳水差し	西欧	ローマ期
銀化広口瓶	西欧	ローマ期
人頭象形壺	西欧	エトルスク文化
フクロウと植物文様鉢	西欧	エトルスク文化
スフィンクス図アラバストロン	西欧	
鶏図アラバストロン	西欧	
黒絵式三脚コトン	西欧	
天使像	西欧	ローマ時代
加彩漆喰彫刻	パキスタン	ガンダーラ文化
石彫仏頭	インド	ガンダーラ文化
石彫施無畏印仏手	インド	クシャーン文化
石彫人物トルソ	東南アジア	クメール文化

資料名	地域	時代・文化
三人面付き大壺	インダス	
牛と文字の凍石印章	インダス	ハラッパ文化
動物・幾何学彩文壺	インダス	ハラッパ文化
地母神土偶	インダス	ハラッパ文化
石製印章	インダス	ハラッパ文化
土製印章	インダス	ハラッパ文化
こぶ牛土偶	インダス	
玉鉞	中国	
獣面玉	中国	
魚形玉	中国	
漆喰人物像頭部	中国	
青銅製鏡	中国	
錫鏡	中国	
青銅鼎	中国	
天女像石彫	中国	
青銅製仮面	中国	三星堆遺跡
木棺マスク	アフリカ	末期王朝時代
トキの姿のトト神	アフリカ	末期王朝時代
ブラックトッブ	アフリカ	ナカーダⅠ〜Ⅱ期
呪術板	アフリカ	ブトレマイオス朝
呪術版 キップス（ホルス碑）	アフリカ	ブトレマイオス朝
ジェセル王のタイル	アフリカ	古王国・第3王朝（B.C.2686年〜B.C.2613年）
オキシリニコス	アフリカ	ブトレマイオス朝
鳥形化粧パレット	アフリカ	ナガタ期（B.C.3200年頃）
座像	アフリカ	新王朝（B.C.1565年〜B.C.1070年）
奉納板	アフリカ	第26王朝
ビーズ製顔	アフリカ	不明
木製人物立像	アフリカ	不明
ウシャブティ	アフリカ	不明
石鏃・251点	南米	旧石器時代後期
ハンドアックス（握り斧）	西欧	アッシュール期
石核石刃	西欧	中期旧石器以降
礫石器	アフリカ	100万年前
チョッパー（叩き切る道具）	アフリカ	100万年前
剥片	アフリカ	100万年前
剥片	アフリカ	100万年前
礫石器	アフリカ	100万年前
ハンドアックス（握り斧）	アフリカ	100万年前
阿玉台式土器	日本	縄文中期
馬高式土器	日本	縄文中期
大洞C2式皿	日本	縄文晩期中頃
みみずく土偶	日本	縄文後期後半
遮光器土偶	日本	縄文晩期後半
妊婦土偶	日本	縄文後期
赤ちゃん土偶	日本	縄文
動物土偶	日本	縄文後期
動物土偶（猿）	日本	縄文後期〜晩期
人面付き香炉形土器	日本	縄文後期後半
大洞BC式香炉形土器	日本	縄文晩期
大洞C1式壺形土器	日本	縄文晩期中頃
耳飾り	日本	縄文晩期
耳飾り	日本	縄文晩期
耳飾り	日本	縄文晩期
ミニチュア土器	日本	縄文
土版	日本	縄文晩期
土版	日本	縄文晩期
大洞C1式皿	日本	縄文晩期

資料名	地域	時代・文化
大洞BC式注口土器	日本	縄文晩期中頃
人面付土板	日本	縄文晩期
人面付岩板	日本	縄文晩期
岩板	日本	縄文晩期
耳飾り	日本	縄文晩期
耳飾り	日本	縄文
有孔土製品	日本	時代不明
翡翠製垂飾り	日本	縄文後期
石剣・石刃	日本	縄文晩期
翡翠製垂飾り	日本	縄文後期
翡翠製垂飾り	日本	縄文後期
石棒	日本	縄文後～晩期
石剣	日本	縄文
石剣	日本	縄文晩期
石棒	日本	縄文晩期
加曾利E式土器	日本	縄文中期
勝坂式土器	日本	縄文中期
称名寺式土器	日本	縄文後期前期
注口土器	日本	縄文晩期
加曾利E式土器	日本	縄文中期

いのちをつなぐ食 part2

開催期間

平成22年10月1日（金）
～平成23年5月16日（火）

展示目的

前回の企画展では、「食」を「いのち」の視点から取り上げた。
パート2では食にまつわる人の想いや願いといった「こころ」に視点を移して取り上げ、来館者に現代人がいつしか忘れてしまったものかもしれない「こころ」について考える機会を提供する。

展示内容

前回同様、「食の素材」「家庭での食」「郷土の食」の三つの項目を取り上げた。
三つの項目とも関わる人の想いや願いをテーマに「こころ」を感じる展示を目指した。
「食の素材」では素材に関わる人の想い、「家庭での食」では食を通した家族のつながり、「郷土の食」では感謝の想いを紹介した。

展示の様子



第3回世界現代木彫根付芸術祭

開催期間
平成22年9月11日（土）～12月12日（日）

作品点数
46点

主催
日本木彫芸術文化財団

共催
伊勢根付会、飛騨匠根付会、光記念館

開催目的
江戸の粋や洒落の代表的存在であり、日本の伝統文化の一つでありながら、明治以降日本人がすっかり忘れてしまった根付が今、徐々に見直されてきている。また、根付の魅力である材質と高い技術水準、そこに込められた自由な意匠から「凝縮された芸術の小宇宙」や「木の宝石」として世界がその価値を認めている。
本芸術祭は木の国日本から「匠の技」を世界へ発信すると共に、現代の感覚に合わせた新しい「現代根付」を創造すべく開催された。

展示の様子



展示作品

分類	作品	作者	備考
根付	百眼も一眼にすぎず	大竹亮輔	大賞
	ワーニング	独歩	最優秀賞
	夢中	直	優秀賞
	のぞき見ワニ君	守作	特別賞
	はっけよい	新野佑一	奨励賞
	龍門	圓照	京都清水寺賞
	一茶の思い	佐々木元	
	ほたる・なつむし・くさのむし	田下聡	
	真夜中12時までのひと休み	田下聡	
	ひやくだま	谷口傳幸	
	空を飛ぶ夢	光斉	
	ゲゲゲ三代	下屋孝雄	
	ぴーMAN	森本節治	
	斐太に思いを馳せて	呂八	
	蜘蛛の糸	福本正則	
	鬼瓦卵（鬼が笑う）	高木睦仙	
	食糧危機	高木睦仙	
	相愛	中川東平	
	竹に虎	洋行	
	パ…パ…パ…？	谷本善隆	
	押え込み一本!!	呂八	
	愛みつけ!!	三本木桂子	
	文庫結び	三本木桂子	
	これぞ本家、河津掛	中川東平	
	アンティーク・アイロン	下保木成子	
	「まゝ 蛇々 よ～」	夢峰	
	恋ごころ	俊蹄	
	古城址（ゆるんだ石垣）	三本木昭一	

分類	作品	作者	備考
	子かばの 波乗りジョニー	三本木昭一	
	生と死 -二つの光-	閑溟	
	雨蛙	紫苑	
	不浄負け	宝源	
	狸賽	井上西蛙	
	躍動	万征	
	桃猿	光斉	
	やまね	櫻井美樹	
	共演	独歩	
	はっけよい！	吉岡知朱	
	にゃん2	田口洋子	
	ペンツ君の心配事	守作	
	飛んでっちゃった	金井正雄	
	寄るなっ！	金井正雄	
	子育て支援	日下部鐘道	
	ホオズキにカタツムリ	佐々木元	
	あまい	和明	
	からくり心臓	竹岡敏男	

第4回世界現代木彫根付芸術祭

開催期間
平成23年9月15日（木）～12月12日（月）

作品点数
33点

主催
日本木彫芸術文化財団

共催
光記念館

開催目的
日本は木の国で、人々は古来から木を生活に取り入れ、木と共に生きてきた。そして、そこから木の文化が育まれていた。日本の木には魂が宿るといわれ、それを木魂（もっこん）と呼んでいる。木魂は、神様がそれぞれの木を通して私たち人間を守り、育ててくれるという思想からきているため、木に宿る魂は、立ち木から材木になり、彫刻や根付に形を変えても同じように引き継がれる。このように、私たち日本人の心には、木の魂が宿り、日本人は木と共に文化を築いてきたのである。今は便利で扱いやすい新素材に目を奪われて木のぬくもりを忘れがちだが、木の文化の減少は、日本人の心の衰退に繋がっていく。日本木彫芸術文化財団は、日本人の心に根づいている木を使った芸術作品を復活させ、木を通して日本人の心を甦らせることを目的に設立された。木彫の作家さんたちを育て、作品の発表の場をサポートし、その作品の素晴らしさを世界に広めていくこと、これを当財団の大切な役割として、果たしていくために本芸術祭を開催した。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者	備考
根付	難転光玉河童	富沢正志	大賞
	外孫	森本節治	最優秀賞
	森の恵み	下屋孝雄	京都清水寺賞
	舌のびるよ	野溝和弘	優秀賞
	鰯の頭も	高木睦仙	特別賞
	現代のMy House	亮輔	奨励賞
	聖夜の助人	挾土宝源	
	先人の知恵	三本木桂子	
	春の贈り物	三本木桂子	
	人かたまって人になる	福本正則	
	悪い奴ほどよく眠る	光斎	
	耳くらべ	光斎	
	鈴をつけられた正次さんちのネコ	佐々木元	
	旅立ち	佐々木元	
	無念	金井正雄	
	縁結び	俊晞	
	ぎゅう	市橋和典	
	トウモロコシ	川上英男	
	TSUNAMIから祈りへ	高木睦仙	
	困惑	西蛙	
	隠者の楽しみ	十志	
	兎の夢	田下聡	
	かぼちゃにて	田下聡	
	太古の誕生	和明	
	M136	足達聖大	
	うわあ…………あ。	三本木昭一	
	高山陣屋 朝市	三本木昭一	
	優しさを素直にありがとう	下保木成子	
	タコと魚の目	高木睦仙	
	因幡の素兎	松井昌	
	百眼も一眼にすぎず	大竹亮輔	
	本（元）に引きカエル派手にカエル	東勝廣	
	飛騨籠の渡し	東勝廣	

古代ローマ遺跡と中世の城写真展 ～撮影・北村禎抒～

開催期間
平成23年2月26日（土）～5月22日（日）

作品点数
13点

開催目的
ヴァッレ・ダオスタ自治州はイタリアで最も小さな州だが、ヨーロッパ最高峰のモンブラン、マッターホルン、モンテ・ローザ、グランパラディーンなど、4千メートル級の名峰に抱かれた伝統的・文化・行事の盛んな美しい所である。
州都アオスタの歴史は紀元前25世紀まで遡り、紀元前1世紀に初代ローマ皇帝アウグストゥスがアウグスタプレトリアを建築してからは「アルプスのローマ」と称され、古代ローマの面影を残す城、ロマネスク様式の寺院などが建てられ繁栄してきた。その素晴らしい遺跡や中世の建築物、芸術装飾など美を紹介することを目的とした。



展示の様子



展示作品

作品名	作者名	制作年
イッソーニエ城	北村禎抒	
グラン・サン・ベルナルド	//	
グラン・パラディーン	//	
サンタ・マリア大聖堂	//	
サントルソ教会	//	
テアトロ・ロマーノ	//	
州庁舎	//	
ピッコロ・サン・ベルナルド	//	
フェニス城	//	
ポンテ・ロマーノ	//	
モンテ・チエルヴィーノ	//	
モンテ・ピアンコ	//	
モンテ・ローサ	//	

教育普及活動

講演会

インカ・マヤ文明探訪紀行



開催日時

平成23年8月7日(日) 14:00～15:00

講師

吉井隆雄(古代アメリカ学会会員)

場所

地下2階 特別展「謎の文明インカ・マヤ展」展示室内

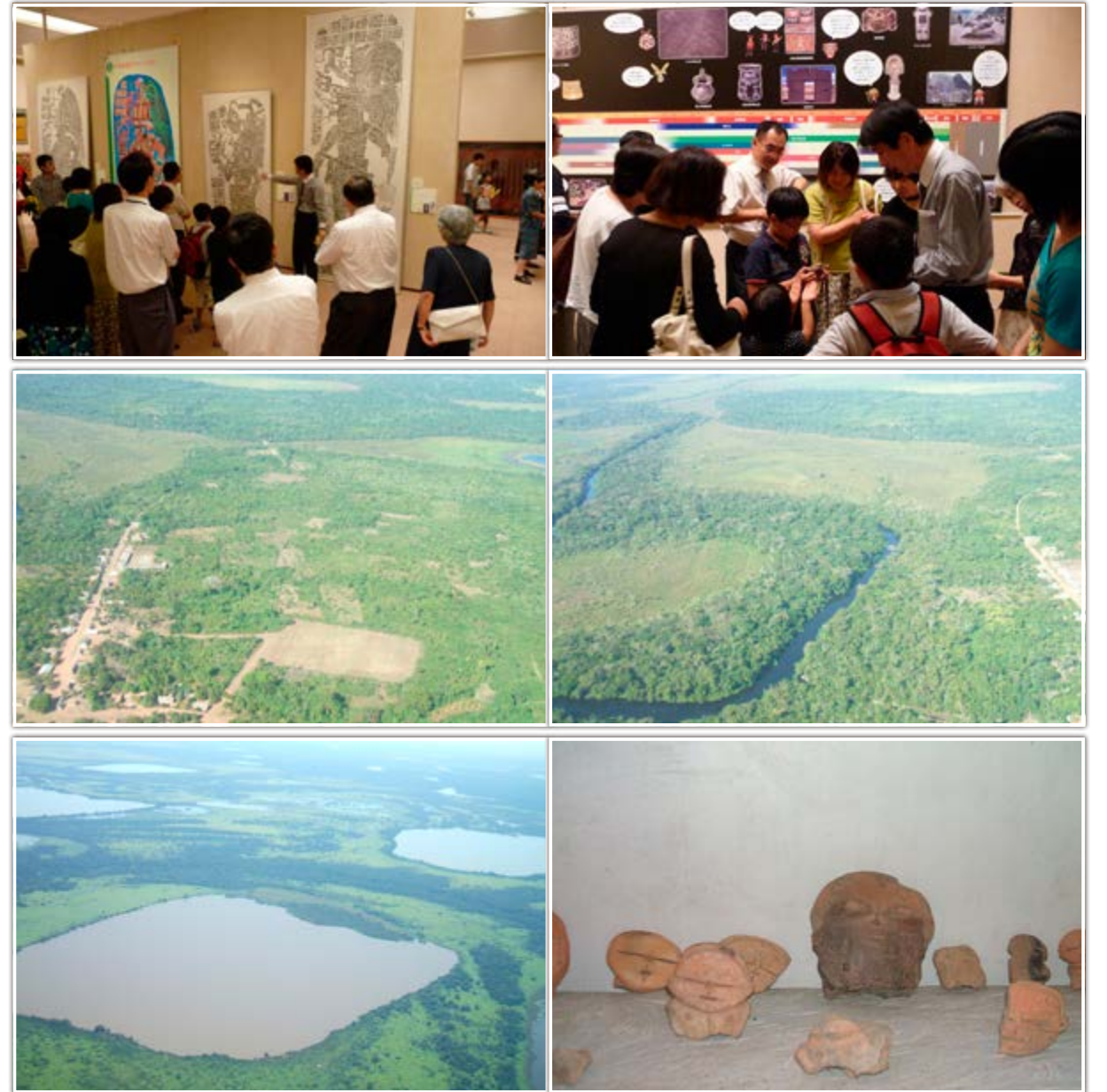
参加人数

約50人

講演概要

古代アメリカ学会会員の吉井隆雄が過去2回に亘りペルー、ボリビア、メキシコなどを探訪した体験記をインカ・マヤ展の実物資料を見ながら解説をした。
インカ・マヤに限らずアンデス文明やメソ・アメリカ文明全体にわたる幅広い解説と最新の情報も提供した。

講演の様子



岐阜県博物館協会 第119回公開講座が平成23年8月7日に光記念館で開催された。光記念館では「マチュ・ピチュ遺跡発見100周年記念 謎の文明 インカ・マヤ展」が開催され、中央アメリカのメソアメリカ文明、コロンビア、ペルーを中心に繁栄したアンデス文明などユニークで謎に満ちた様々な古代文明を紹介していた。古代アメリカ学会会員の吉井隆雄氏が「インカ・マヤ文明探訪紀行」と題して講演を行った。古代アメリカ学会は中南米の最新の研究を行う研究者の集まりを中心とした学会である。また、なかなか行けないボリビアのモホス文明を視察することにも触れた。モホス文明は学術的にはまだ認められていないところがあるが、生態系を利用した文明は今後の環境問題を考えた場合とても重要な教えがあると思われる。今後の新しい研究成果に期待したいとまとめられた。

出張美術館

実施にあたって

子供たちが、幼少の頃から美術館・博物館に行き、本物に触れるということが欧米では決して珍しくない。当館では小・中学校に美術品を持ち込んで、児童・生徒に本物に触れさせ、優れた作品から感動・喜びを体験してもらおうと出張美術館を開催している。

文化庁のモデル事業として始まったこの出張美術館も今年（H23）で9年目。授業数が減る中、図工・美術の鑑賞教育の支援として学校と連携して行い、10月～12月の約3ヶ月間に下記の通り出張した。

出張美術館を通じて子供たちが芸術文化に触れ合い、和やかな心と豊かな感性を持った人間に成長することを願うと共に、交通のデメリットを少しでも解消し、多くの人々に美術鑑賞をしていただきたいと考えている。

平成22年度

小学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/ 6（水）	高山市立山王小学校	115名（3クラス）
10/18（月）	高山市立西小学校	38名（1クラス）
10/19（火）	高山市立久々野小学校	40名（1クラス）
10/20（水）	高山市立新宮小学校	68名（2クラス）
10/21（木）	高山市立丹生川小学校	44名（2クラス）
10/26（火）	高山市立岩滝小学校	10名（2学年）
10/28（木）	高山市立江名子小学校	65名（2クラス）
11/12（金）	高山市立北小学校	119名（3クラス）
11/12（金）	高山市立清見小学校	24名（1クラス）
11/15（月）	高山市立南小学校	74名（2クラス）
11/17（水）	高山市立国府小学校	82名（3クラス）
11/30（火）	高山市立三枝小学校	43名（2クラス）
12/ 1（水）	高山市立東小学校	90名（3クラス）
12/ 2（木）	高山市立宮小学校	33名（1クラス）
12/10（金）	高山市立花里小学校	57名（2クラス）
合計	15校	902名

中学校

日付	学校名	人数（クラス数）
11/10（水）	高山市立東山中学校	140名（4クラス）
11/18（木）	高山市立中山中学校	178名（5クラス）
11/19（金）	高山市立丹生川中学校	34名（1クラス）
12/ 6（月）	高山市立日枝中学校	188名（5クラス）
12/ 7（火）	高山市立松倉中学校	165名（5クラス）
合計	5校	705名

小学校作品リスト

資料名	作者	備考
東海道五十三次『川崎（六郷渡舟）』	歌川広重	浮世絵版画
東海道五十三次『大磯（虎ヶ雨）』	//	//
東海道五十三次『原（朝之富士）』	//	//
東海道五十三次『藤枝（人馬継立）』	//	//
東海道五十三次『金谷（大井川遠岸）』	//	//
東海道五十三次『舞坂（今切真景）』	//	//

中学校作品リスト

資料名	作者	備考
美人あわせ	溪斎英泉	肉筆浮世絵
名所江戸百景『山下町日比谷さくら田』	歌川広重	浮世絵版画
名所江戸百景『大てんま町木綿屋』	//	//
名所江戸百景『京橋竹がし』	//	//
名所江戸百景『千駄木團子坂花屋敷』	//	//
名所江戸百景『ハツ見のはし』	//	//
名所江戸百景『浅草金龍山』	//	//

掲載記事



平成22年10月7日 中日新聞掲載

出張美術館の様子





平成23年度

小学校

日付	学校名	人数（クラス数）
9/6（火）	高山市立北小学校	124名（4クラス）
10/6（木）	高山市立清見小学校	24名（1クラス）
10/7（金）	高山市立江名子小学校	61名（2クラス）
10/11（火）	高山市立国府小学校	92名（3クラス）
10/25（火）	高山市立新宮小学校	77名（2クラス）
10/26（水）	高山市立山王小学校	95名（3クラス）
11/10（木）	高山市立花里小学校	58名（2クラス）
11/15（火）	高山市立三枝小学校	30名（1クラス）
11/16（水）	高山市立南小学校	76名（2クラス）
11/21（月）	高山市立岩滝小学校	10名（2学年）
11/22（火）	高山市立宮小学校	24名（1クラス）
11/24（木）	高山市立久々野小学校	41名（1クラス）
11/30（水）	高山市立丹生川小学校	56名（2クラス）
12/1（木）	高山市立東小学校	103名（3クラス）
12/8（木）	高山市立西小学校	34名（1クラス）
合計	17校	905名

中学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/12（水）	高山市立朝日中学校	52名（2学年）
10/13（木）	高山市立宮中学校	50名（2学年）
10/27（木）	高山市立日枝中学校	180名（5クラス）
10/28（金）	高山市立東山中学校	137名（4クラス）
11/17（木）	高山市立中山中学校	160名（5クラス）
11/18（金）	高山市立丹生川中学校	40名（1クラス）
11/29（火）	高山市立松倉中学校	167名（5クラス）
	合計 7校	786名

小学校作品リスト

資料名	作者	備考
東海道五十三次『興津（興津川）』	歌川広重	浮世絵版画
東海道五十三次『荒井（渡舟ノ図）』	〃	〃
東海道五十三次『宮（熱田神事）』	〃	〃
東海道五十三次『四日市（三重川）』	〃	〃
東海道五十三次『阪之下（筆捨嶺）』	〃	〃
東海道五十三次『土山（春之雨）』	〃	〃

中学校作品リスト

資料名	作者	備考
美人あわせ	溪斎英泉	肉筆浮世絵
名所江戸百景『深川木場』	歌川広重	浮世絵版画
名所江戸百景『砂むら元八まん』	〃	〃
名所江戸百景『両国花火』	〃	〃
名所江戸百景『堀切の花菖蒲』	〃	〃
名所江戸百景『吾妻橋金龍山遠望』	〃	〃
名所江戸百景『深川萬年橋』	〃	〃

掲載記事

児童、浮世絵に興味津々

光記念館（高山市中
山町）が所蔵する美術
品を紹介する出張美術
館が22日、同市一之宮
町の宮小学校であり、
児童らが本物の作品に
触れ、芸術に親しんだ。
同館が市内の小中学
校や特別養護老人ホー
ムなどで毎年実施して
いる文化事業。同校で
の実施は今年で8年
目。吉井隆雄主任学芸
員、職員の中ミチル
さんが6年生26人に講



三色刷りに挑戦する児童ら＝高山市一之宮町、宮小学校

光記念館（高山市中
山町）が所蔵する美術
品を紹介する出張美術
館が22日、同市一之宮
町の宮小学校であり、
児童らが本物の作品に
触れ、芸術に親しんだ。
同館が市内の小中学
校や特別養護老人ホー
ムなどで毎年実施して
いる文化事業。同校で
の実施は今年で8年
目。吉井隆雄主任学芸
員、職員の中ミチル
さんが6年生26人に講

十三次」の中から6点
を紹介。児童らは約1
60年前の美術作品を
間近で見、興味深げ
に目を輝かせていた。
このほか、児童らは
葛飾北斎の「富嶽三十六景」の「神奈川沖浪
裏」などの三色刷りに
も挑戦。佐藤繁名さん
（12）は「出来上がった
版画はすくよくかつ
た」と話していた。
（古川賢央里）

平成23年 11月23日 岐阜新聞掲載

市内小中校で「出張美術館」

高山・光記念館 所有の浮世絵など紹介



歌川広重の作品を説明する吉井隆雄さん＝高山市宮中学校で

高山市中山町の光記
念館が、市内の小中学
校を回る「出張美術
館」を実施している。
館が所有する歌川広重
の作品などを紹介して
おり、十二月にかけて
市内の二十一校を回
る。

宮中学校では、学芸
員の吉井隆雄さんと今
泉たまみさんが講師を
務め、二年生二十九人

が鑑賞だけでなく葛飾
北斎の「富嶽三十六
景」や歌川広重の「名
所江戸百景」の版画を

刷る体験をし、作品の
時代背景などを学ん
だ。今泉さんは「本物
の作品に触れて歴史と
美術について考えてお
られれば」と話してい
た。

出張美術館は、本物
の芸術作品を通して豊
かな感性を養ってもら
おうと二〇〇三年から
開いている。
（大沢悠）

平成23年10月13日 中日新聞掲載

出張美術館の様子





体験学習

実施にあたって

美術館・博物館が行う教育は、展示のほかに講演・講座をはじめとする多様な形態の学習支援活動がある。さらに、興味・関心を引き出す手法を開発したりアミューズメント性を高めることで、幼児から高齢者まで誰もが気軽に自発的に学習したり、知を愉しむことのできる場となる。当館のレプリカ作りやストラップ作り等は、楽しく学び、美術館・博物館に親しみを感じて頂く事を目的とする。

平成22・23年通年の体験学習

□ビーズ付きオリジナルストラップを作ろう!!

日時：平成22・23年開館中の土曜日

場所：人類史展示室前

対象：小学1年生以上

参加者：平成22年延べ183名、平成23年延べ243名

参加費：100円

内容：プラ板にあらかじめ用意した古代の絵柄を写したり、オリジナルの模様を描いて色を塗り、紐とビーズをつけてストラップを作る体験学習。平成23年はインカ・マヤ展に関連した絵柄を追加し、プラ板のサイズも選べるようにした。

状況：絵柄だけでなく参加者の名前や来館した日付などを書き込んで、来館の記念になるようなストラップを作って楽しむ様子がみられた。



□ビーズ付きまがたまストラップを作ろう!!

日時：平成22・23年開館中の日曜日、祝日

場所：人類史展示室前

対象：小学1年生以上

参加者：平成22年延べ532名、平成23年延べ764名

参加費：100円

内容：カラフルなオープン粘土で作った勾玉に紐を通し、ビーズをトッピングしたストラップを作る体験学習。平成23年はインカ・マヤ展に関連した絵柄スタンプやトンボ玉、星、月、動物やハート形の見本を追加し、リピーターも楽しめるようにした。

状況：一度に何個も作成したり、何度も来館して作られる方も多くみられ、色の組み合わせなど工夫して楽しんでいた。

平成22年度の体験学習

□字が大好物!?アンモナイト作り!

日時：4/3.4.10.11.17.18.24.25
5/8.9.15.16.22.23.29.30
9/4～12/12
場所：飛騨展示室
対象：4歳以上
参加者：236名
参加費：100円
内容：アンモナイトの型にねんど消しゴムを押し込み、ゆでて固める体験学習。
状況：アンモナイトについてあまり知識がない参加者が多く、古生物について学んで頂く良い機会になった。実際に作ったものがすぐに使えるかどうかを確認する子供が多く、実際に使えることがわかれるとご満足された様子だった。保護者の方からは、子供が体験を行い、出来上がったものが実用的なものなので無駄にならないとのことでお喜び頂けた様子だった。



□光る! T-rexの歯を作ろう!

日時：4/29.30.5/1.2.3.4.5.（7日間）
場所：飛騨展示室
対象：4歳以上
参加者：57名
参加費：260円
内容：ティラノサウルスの歯の型に透明樹脂を流して複製を作る体験学習。
状況：樹脂を使ったティラノサウルスの歯のレプリカ作りには参加者が多くみられた。レプリカ作りを通して化石や恐竜について学ぶことができ科学と古生物への興味を持って頂けたようだった。又、透明の樹脂にLEDが反射するので、仕上がりの綺麗さに満足している様子だった。



□オリジナルワークショップ君だけのジュラシックTシャツorキャップを作ろう!

日時：6/5.6.12.13.19.20
場所：飛騨展示室
対象：4歳以上
参加者：28名（帽子：8名/Tシャツ：20名）
参加費：150円（帽子）、500円（Tシャツ）
内容：帽子やTシャツに恐竜や足跡の型紙で色を塗り、乾燥後アイロンで定着させる。
状況：参加者からは「クレヨンで恐竜の絵を描くのが楽しかった。また恐竜のTシャツ作りの体験学習をしたい」「恐竜の絵を描くのは難しかったけど、楽しかった」との感想が多かった。楽しみながら古生物に興味を持つことに繋がったようだった。



□かわいい宝石ストラップ作り!

日時：7/3.4.10.11.17.18.19.24.25.31
場所：飛騨展示室
対象：4歳以上
参加者：160名
参加費：150円
内容：頭の部分に鉱物、両手両足にビーズを使った人型携帯ストラップ作り。
状況：楽しみながら鉱物に触れることで、自分たちの生活の中に身近にあるものであることを理解して頂けた。誕生石や鉱物の学習をしながら作成し、出来上がったストラップをうれしそうにカバンや携帯電話に付け観察する参加者の様子を見て、手作りの良さを実感した。



□(キラカッコイイ!!)キラキラ砂絵でT-rexをかこう!

日時：8/1.7.8.21.22.28.29

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：52名

参加費：150円

内容：恐竜の型にのりを付けて、ラメの粉末をふりかけ、恐竜の砂絵を作り、額縁に入れて仕上げる。

状況：ほとんどの人が初めての体験で、恐竜の型にラメの粉末をふりかけオリジナルの恐竜砂絵を作製することで、中生代の恐竜について子供たちが興味・関心を持った様子だった。



□七色に光る! T-rexの歯を作ろう!

日時：8/11.12.13.14.15

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：44名

参加費：300円

内容：レインボーカラー七色(なないろ) に光るティラノサウルスの歯を作る。

状況：中生代に生息していた巨大な肉食恐竜について頭骨模型などを使い解説した。LEDで七色に光る、大きなT-rexの歯ができたことで子供達は大変満足していた様子だった。



□ティラノサウルスの歯をさわちゃおう!

日時：5/22～6/23、7/2～9/5

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：1875名

参加費：無料

内容：本物のティラノサウルスの歯に触る体験学習。

状況：恐竜が生きていた中生代やティラノサウルスの特徴や食性などに関する解説を聞き、更に、実物資料に触れ、鋸歯の部分に実際に触れると子供たちは大変満足した様子だった。



□土曜教室 植物のガラスリッツェンを作って母の日にプレゼントをしよう!

主催：高山市市民部 生涯学習課

日時：5/8

場所：飛騨展示室

対象：高学年生以上

参加者：10名(定員10名)

参加費：400円

内容：ガラスの小皿にリユーターを使い、植物の絵を彫る。

状況：参加者からは「ガラスに写し彫るところが楽しかった」「植物化石について知ることができて面白かった」という声を多くいただいた。また、保護者からは「学校では出来ない事をさせて頂き子供が夢中になれる体験ができてありがたかったです」といった意見、感想を頂いた。子供たちは学習意欲を高めることができた様子だった。



□土曜教室 君だけの恐竜Tシャツを作ろう!

主催：高山市市民部 生涯学習課

日時：6/19

場所：飛騨展示室

対象：高学年生以上

参加者：10人(定員10名)

参加費：500円

内容：Tシャツに恐竜や足跡の型紙で色を塗り、乾燥の後アイロンで定着させる。

状況：参加者からは「恐竜の骨格を描くのは大変だったけど、恐竜の骨のしくみを知ることができて良かった」「恐竜の絵を描けたことと、Tシャツを着ることができ嬉しかった」という声が多く聞かれた。保護者からは「大変貴重な体験をさせて頂きました。有難うございます」「子供が体験学習に、きたいというので、また参加させたいです」といった意見、感想をいただいた。子供たちは体験することによって物事を理解することができた様子だった。



□土曜教室 七色に光るT-rex の歯のレプリカを作ろう!

主催：高山市市民部 生涯学習課

日時：7/17

場所：飛騨展示室

対象：高学年生以上

参加者：10名(定員10名)

参加費：300円

内容：樹脂とLEDを使ってティラノサウルスの歯のレプリカを作製する。

状況：参加者からは「自分で七色に光るレプリカを作れたことが嬉しかったし、色々な液を混ぜるのが楽しかった」「液を型に入れて、型から取り出したのが面白かった」「最後に七色に光った時が一番嬉しかった」という声が多かった。保護者からは「今回参加できて大変嬉しいです。子供が恐竜に興味を持っているので、また参加させたいです」「色々な恐竜の歯や爪のレプリカ作りをもっとやってほしい」といった意見、感想をいただいた。実物に触れることにより、子供たちの感受性が豊かになるように感じた。



□土曜教室 恐竜キャップを作ろう!

主催：高山市市民部 生涯学習課

日時：8/21

場所：飛騨展示室

対象：高学年生以上

参加者：8人(定員10名)

参加費：150円

内容：帽子に恐竜や足跡の型紙で色を塗り、乾燥後アイロンで定着させる。

状況：参加者からは「色を塗るところ、シールをはがすところが楽しかった」「恐竜キャップを作ることが面白かった」「ティラノサウルスを知らない人でも興味を持つように説明してくれた所が面白かった」という声が多かった。保護者からは「丁寧に説明して頂き、参加できて良かったと思いました」「学校では学べない事を、今回のように恐竜に関係したことを楽しみながら身に付けられるのが良かった」といった感想をいただいた。教科を超えた学習がより深い本人の理解に繋がった様子だった。



□七色に光る! T-rexの歯を作ろう!

主催：丹生川地区社会教育運営委員会

日時：10/3

場所：丹生川文化ホール

対象：4歳以上

参加者：39名

参加費：300円

内容：レインボーカラー(なないろ) に光るティラノサウルスの歯を作る体験学習。

状況：参加者からは「自分で七色に光るティラノサウルスの歯のレプリカを作ることが面白かった」「色々な液を混ぜて作るのが楽しかった」「LEDを知ることができたのが良かった」保護者からは「ただ作るだけではなく、学習や見学など内容も盛り沢山で満足でした。楽しめて良かったです」「学校で出来ない事を色々体験させてもらえるのでありがたいです」といった感想をいただいた。体験学習により自然科学への興味や関心が高まったようだった。



□いきいき縄文フェスティバル ビーズ付きまがたまストラップを作ろう!

主催：高山市久々野支所地域振興課

日時：10/10

場所：久々野中学校体育館

対象：小学校1年生以上

参加者：延べ61名

参加費：100円

内容：カラフルなオープン粘土で作った勾玉に紐を通し、ビーズをトッピングしたストラップを作る体験学習。

状況：堂之上遺跡を擁する久々野町にて平成21年に引き続き2度目の開催。家族や友達同士で連れ立って参加され、堂之上遺跡について学んだり、勾玉作りなどの体験を通して地域の交流を深めておられた。



平成23年度の体験学習

□レプリカストラップを作ろう!

日時：2011年4月～毎週土曜日

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：381名

参加費：100円

内容：クリアカラーで作る化石のレプリカ体験学習。

状況：当館の体験学習では定番となりつつあるレプリカ作りの新しいバリエーション、クリスタルガラスや天然石でデコレーションを施したストラップ作りをした。参加者はレプリカの色や形（アンモナイトかスピリファー）を選んで作製。キラキラ輝く出来上がりに、幼児から一般まで広く好評を得る事ができ、喜んでいただけた様子だった。



□光る!アンモナイトレプリカを作ろう!

日時：2011年4月～毎週日曜日・祝日

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：557名

参加費：200円

内容：クールカラーに光るアンモナイトを作る体験学習。

状況：化石を始め古生物から現生生物まで興味関心を持てるように留意した説明を行い、アンモナイト化石から取った型に柔らかくした樹脂を入れ、当館で予め作製したLEDユニットを埋めて、光るストラップを作製した。参加者は古生物の化石への関心を大きく高めることができた様子だった。



□七色に光る!アンモナイトレプリカを作ろう!

日時：8/10.11.12.13.14.15.16(7日間)

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：124名

参加費：300円

内容：レインボーカラー七色(なないろ)に光るアンモナイトレプリカを作る体験学習。

状況：お盆期間限定の7色のLEDが一番人気で、参加人数が多かった為、実施時間などは極力お客様のご要望にお応えできるようにさせていただいた。限られた時間ではあったが、古生物から現生生物まで化石を中心に解説を行うと「初めて知った」「不思議に思っていた」などの声が聞こえ、生き物に関心を持っていただけであった様子だった。



□ティラノサウルスの歯をさわちゃおう!

日時：7/21～8/30

場所：飛騨展示室

対象：全員

参加者：975名

参加費：無料

内容：本物のティラノサウルスの歯に触る体験学習。

状況：子供に人気のあるティラノサウルスの歯のハンズオンで、見て、触れて、感じていただいた。短時間で容易にできる体験学習で人気があった。子供だけでなく大人の方まで幅広く体験され、恐竜の解説を行うと理解を深められ、大変満足していただけた。



□わくわく探検ノート

日時：6/1～

場所：飛騨展示室

対象：全員

参加者：約900名

参加費：無料

内容：展示を見てその化石などのスタンプを押す体験学習。

自ら学ぶことができるワークシートを活用したもので、展示の解説があり、それを見ながら学べる内容。最後にステッカーをプレゼントした。

状況：参加者は理科や地学などで学んだ内容の理解を深めることができた様子だった。



□七色に光る!アンモナイトレプリカを作ろう!

主催：丹生川地区社会教育運営委員会

日時：10/2

場所：丹生川文化ホール

対象：4歳以上

参加者：28名

参加費：300円

内容：レインボーカラー(なないろ) に光るアンモナイトレプリカを作る体験学習。

状況：子供たちに古生物に親しんでもらう為、アンモナイトの化石のレプリカ作りを行った。アンモナイトと現生のオウムガイとの違いを解説したところ、実際に化石に触れながらじっくりと観察することで理解が深まった子供が多く、効果的な体験学習となった。



貸出資料

作品貸出（平成22年度）

特別展「光記念館所蔵 近代日本画の清華」（平野美術館）

作品	作者	備考
晴日	伊東深水	
御点前	//	
美人納涼図	上村松園	
わか葉頃	//	
白神花	大矢紀	
早春	堅山南風	
権八小紫	鍋木清方	
棗の葉かげ	//	
京鹿子娘道成寺	//	14幅 1セット
夜桜	加山又造	
たゆとう霧	工藤甲人	
金太郎	小杉放庵	
武陵桃源	下村観山	
凧	東山魁夷	
湖辺	菱田春草	
瀑布(流動)	//	
渡舟図	//	
武将	前田青邨	
巖島	//	
牡丹図	村上華岳	
観音	安田靉彦	
蓬萊山	横山大観	
秋の月	//	
海浜	//	
不二豊峰	//	

作品貸出（平成23年度）

「日本画三代 上村松園・松篁・淳之展」（富山県水墨美術館）

作品	作者	備考
三美人之図	上村松園	
美人納涼図	//	
わか葉頃	//	

特別展「清方の《娘道成寺》と明治の風情」（鎌倉市鍋木清方記念美術館）

作品	作者	備考
三美人之図	上村松園	
美人納涼図	//	
わか葉頃	//	
権八小紫	鍋木清方	
神田祭	//	
お稽古	//	
花の山	//	
紅葉	//	
娘道成寺	//	

作品	作者	備考
棗の葉かげ	鍋木清方	
京鹿子娘道成寺	//	14幅 1セット

「伊東深水展」（平塚市美術館）

作品	作者	備考
晴日	伊東深水	開館20周年記念

「川合玉堂展 ー描かれた日本の原風景ー」（神奈川県立近代美術館・松坂屋美術館）

作品	作者	備考
山村積雪	川合玉堂	
夏冬山水	//	
湖村夕照	//	
古城春夕	//	

「没後100年 菱田春草展」（長野県信濃美術館）

作品	作者	備考
瀑布(流動)	菱田春草	

「和紙に魅せられた画家たち 近代日本画の挑戦」（明治神宮文化館 宝物展示室）

作品	作者	備考
罌粟	前田青邨	

光記念館 案内所

山内大童展～みんな大きな円の中～

開催期間
平成23年2月24日（木）～4月26日（火）

作品点数
29点

主催
財団法人 国際美術協会

展示概要
山内大童は、1953年に東京で生まれ、関西学院大学在学中に数々の公募展で入選を重ねた。その後奈良にアトリエをかまえ、墨彩画や木版画をはじめ「御伽草子」「童」「鬼」などをテーマにした作品を、日本のみならずニューヨークなどでも発表している。人と人とのふれあいが少ない現代社会のなか、大童の描く「童」や「河童」に出会う時、私たちの心は暖くなり、和みと安らぎを覚える。そして、詩人「大童」の言葉からぬくもりが伝わり、素直に心を動かされている自分に気付くのである。私たちが失いかけている大切な心、明日も頑張ろうと生きていく勇気を与えてくれる"山内大童芸術約30点"をご覧ください。

展示作品

作品	作者	備考
国生みの圖	山内大童	
窓あかり	//	
神光照天地	//	
黄泉比良坂	//	
子どもが背中であたたかい	//	
大自然中で生かされているよ	//	
天の岩戸開き	//	
普賢菩薩	//	
天地弥栄	//	
遊べ遊べ遊びの天才たちよ	//	
旅人の心にしみる窓あかり	//	
神光照天地	//	
みんな神の子輝いているよ	//	
仏蘭西幻想旅行 天地弥栄	//	
山河を尊ぶ我らなり 山海の圖	//	
みんな大きな円のなか	//	
御伽草子	//	
大佛	//	
大和三山	//	



作品	作者	備考
天より花を戴くわれらなり	山内大童	
霊峰富士	//	
陽光照天地	//	
愛の中で	//	
蓬莱仙境	//	
ノアの箱舟	//	
月宿る池（藤原定家歌より）	//	
旅人の心にしみる窓あかり	//	
嬉しき楽しきありがたき	//	
壽	//	

堀 和義写真展 ～自然の美しさ～

開催期間
平成23年8月1日（月）～9月25日（日）

作品点数
13点

展示概要
日本写真芸術学会正会員の堀和義氏は、これまでに300ヶ所以上の滝を取り続けてきた。澄んだ空気と清らかな水…滝をはじめ、息をのむほど美しい風景写真を13点で観いただいた。



展示作品

作品	作者	備考
神代桜（日本三大桜）	堀 和義	
山梨県 北杜市 橋杭岩	//	
和歌山県 串本市 華厳の滝（日本百選の滝）	//	
栃木県 日光市	//	
久保桜	//	
山形県 長井市 龍双ヶ滝（日本百選の滝）	//	
福井県 池田町 宝龍滝	//	
和歌山県 熊野川町	//	
田代池	//	
長野県 上高地 御射鹿池	//	
長野県 茅野市 東権屋の滝（日本百選の滝）	//	
大分県 安心院町	//	
雨乞いの滝	//	
徳島県 神山町 三春滝桜（日本三大桜）	//	
福島県 三春町 吐竜の滝	//	
山梨県 甲斐大泉	//	
四美・岩太郎の枝垂桜	//	
岐阜県 下呂市 萩原	//	

～日本でただひとりの墨型彫刻師～中村雅峯展

開催期間
平成23年9月30日（金）～12月13日（火）

作品点数
41点

展示概要
1300年続く墨の文化。墨型がなければ墨が作れないばかりでなく、墨型に施された美しい彫刻によって、筆記用具である墨が鑑賞用の工芸品に成り得るのです。今や日本でたった一人となった墨型彫刻師（『形集』七代目）中村雅峯氏の匠の技をご堪能ください。



日本でただひとりの墨型彫刻師

中村雅峯展

平成 23 年 9 月 30 日（金）～平成 23 年 12 月 13 日（火）

中村雅峯氏による展示解説
平成 23 年 9 月 30 日（金）15:00～15:30

1300 年続く墨の文化。墨型がなければ墨が作れないばかりでなく、墨型に施された美しい彫刻によって、筆記用具である墨が鑑賞用の工芸品に成り得るのです。今や日本でたった一人となった墨型彫刻師（中村家七代目）中村雅峯氏の匠の技をご堪能いただけます。

会場：光記念館案内所

主催：財団法人 国際美術協会

光記念館案内所：岐阜県高山市昭和町2-105
TEL:0577-33-5881 開館時間：午前10時～午後6時30分
休館日：毎週水曜日

光記念館
HIKARU MUSEUM

展示作品

作品	作者	備考
龍鳳呈祥の型 1組	中村雅峯	
// の墨 1挺		
青龍の型 1組	中村雅峯	
白虎の型 1組	//	
玄武の型 1組	//	
朱雀の型 1組	//	
硯池尚不乾の型 1組	//	
// の墨 1挺		
長谷寺の型 1組	中村雅峯	
// の墨 1挺		
鹿鳴の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
太公望の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
和光同塵の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
千字文の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
山紫水明の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
平城京の型 1組	中村雅峯	
// の墨 2挺		
梅花墨の型 1組	中村雅峯	
// の墨 1挺		

作品	作者	備考
華正気の型 1組	中村雅峯	
// の墨 1挺		
敵意即為楽の墨 1挺		
みやびの花の墨 1挺		
天平人形の墨 1挺		
奈良八景の墨 1挺		
永和脩楔の墨 1挺		
寿昌の墨 2挺		
天平墨 1挺		
天向龍の墨 1挺		
古墨、墨 4箱		
墨譜 20冊	形集	
書籍『右卿幻夢』 1冊		
ポーラ賞記念品 1箱		
枕木 1箱		
梨の原木の輪切り 1枚		
梨の板 2枚		